

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
総括研究報告書

ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を
目指した研究

研究代表者 八橋 弘 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 副院長

研究要旨

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページを作成し、2021年8月1日にHPの公開をおこなった。2022年2月末までに1200名がHPの閲覧アクセスをおこない、理解度を自己学習するプログラムには2022年3月末までに335名が参加していた。

偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムを2022年3月6日に東京駅近くの会議場で実施した。計40名近くの患者やその家族、市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題について問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者アンケート調査を実施した。肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある者の頻度は、16.1%で、「いやな思いをしたことがある」と回答した者の特徴として、C型肝炎患者よりもB型肝炎患者で、男性よりも女性で、高齢者よりも若年者に多いという特徴がみられた。しかしながら、「いやな思いをしたことがある」と回答した者を対象として、それは過去のことですか、現在も続いている話か尋ねたところ、82.2%が過去のことであると回答していた。偏見差別の経験は過去のことであると回答した者が多いことが今回初めて明らかとなった。また、肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけている者の頻度は、34.3%であった。これは、過去にも現在においても「いやな思いをしたことがある」という経験のない者においても、日常生活で、いやな思いをしないように気をつけている者が少なくないことを示している。肝炎患者のこれらの心の状態、心理模様については、今後十分検討する必要があると考えられた。

令和3年度の本アンケート調査結果は中間集計であり、令和4年度には最終報告をおこなう予定にしている。

研究分担者		
四柳 宏	東京大学医科学研究所・先端医療研究センター感染症分野・教授	
磯田 広史	佐賀大学医学部附属病院・肝疾患センター・助教	
是永 匡紹	国立国際医療研究センター・免疫研究センター・肝炎情報センター・肝疾患研修室長	
米澤 敦子	東京肝臓友の会・事務局長	
中島 康之	東京肝臓友の会／全国B型肝炎訴訟大阪弁護団・恒久対策班事務局長	
梁井 朱美	東京肝臓友の会／全国B型肝炎訴訟九州原告団	
及川 綾子	東京肝臓友の会／薬害肝炎全国原告団・薬害肝炎東京原告団代表	
浅井 文和	日本医学ジャーナリスト協会・会長	
研究協力者		
山崎 一美	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 肝臓内科、臨床研究センター	

A. 研究目的

A-1. 研究の背景

肝炎対策基本法に基づき、「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」が策定された。その指針には、肝炎ウイルスの感染者および肝炎患者に対する不当な差別が存在することが指摘されている。平成23年度から3年間、龍岡資晃元学習院教授による「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班が組織され研究が実施

された。また、平成28年には指針の改定が行われ、肝炎患者等に対する不当な差別や、それに伴う肝炎患者等の精神的な負担が生じることのないよう、正しい知識を身に付け、適切な対応に努めること、などが明記された。

平成29年度から3年間は、「肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への効果的な手法の確立に関する研究」班（研究代表者：八橋 弘）が組織され下記の内容の研究が実施された。①肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害の実態を明らかにした。②看護学生、医学部学生及び病院職員を対象としたウイルス肝炎の感染経路及びウイルス肝炎の感染性についての理解度に関する調査をおこなった。③肝炎患者への偏見差別を考える公開シンポジウムを福岡、札幌、大阪、東京、那覇、広島、仙台、佐賀で開催した。肝炎ウイルス感染者の偏見差別に関する座談会集を作成した。

今までの政策研究で実施された肝炎患者に対する偏見や差別に関する調査によって、その実態は次第に明らかとなったが、それらの問題を一般市民に対してどのように伝え、また偏見や差別を解消するための具体的な方策にどのようにつなげていくかについては、十分な検討がなされていない。

A-2. 研究目的

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

B. 研究方法

本研究班では、主に下記の3点について実施する。

B-1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成して一般公開をおこなう。

B-2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムを開催する。

B-3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者アンケート調査をおこなう。

C. 研究結果

C-1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）の作成

HP内に、研究班の紹介、偏見差別を防止するための事例集・解説集の紹介、ウイルス肝炎の感染経路や感染確率についての理解度を自己学習するプログラム、交流広場、様々な情報提供する場を作成するとともに、偏見差別を防止するための事例集・解説集を作成した（資料1）。また、ウイルス肝炎の感染経路や感染確率についての理解度を自己学習するプログラムについてはホームページの中に作り込みをおこなった。ウイルス肝炎の感染経路や感染確率についての理解度を自己学習するプログラムについてはホームページ上でも統計学的な処理を施し参加者が興味を示す工夫をおこなった。

2021年8月1日にHPの公開をおこなった。2022年2月末までに1200名がHPの閲覧アクセスをおこなった。理解度を自己学習するプログラムには2022年2月末までに335名が参加していた。

C-2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムの開催

令和2年度中に偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムを2か所でおこなう予定であったが、新型コロナウイルス感染流行の影響により全く開催できなかった。

令和3年度も、当初3か所で実施する予定であったが、引き続き新型コロナウイルス感染流行の影響により、年度前半から思うように開催できない中、感染の流行が沈静化し始めた2022年3月6日に東京駅近くの会議場で実施した（資料2）。計40名近くの患者やその家族、市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題について問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。なお、公開シンポジウム参加者は、通常健康管理対策や感染対策に加えて、事前に唾液検体を用いたコロナ診断の定性キットでコロナ陰性を確認して参加された。

C-3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者アンケート調査

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査、アンケート調査内容（資料3）を確定させた後に、研究計画書を作成し2021年6月7日の倫理審査委員会の承認をえた（承認番号2021023）。その後、国立病院機構病院、肝疾患診療連携拠点病院に通院中の患者を対象にアンケート用紙を配布し、その後回収を行い、集計をおこなった（資料4、資料5）。

2021年6月7日から2021年11月1日までの中間集計結果について報告する。調査

施設数は、国立病院機構 33 施設、肝疾患診療連携拠点病院 8 施設の計 41 施設である。この期間中に 5440 名の肝疾患患者にアンケート用紙を配布して、うち 1304 名（23.9%）から回収できた。1304 名の背景因子を表 1 に示す。肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがありますかという設問に対して、

921 名から回答がえられ、特に無いと回答した者は 719 名（83.9%）、「いやな思いをしたことがある」と回答した者は 138 名（16.1%）であった（図 1）。「いやな思いをしたことがある」と回答した者の特徴として、C 型肝炎患者よりも B 型肝炎患者で、男性よりも女性で、高齢者よりも若年者に多いという特徴がみられた（図 2、図 3）。

表 1

アンケート回答者(N=1304)の背景因子(1)

原因別		病態別	
C型肝炎	444(34%)	1. 慢性肝炎	636(48%)
B型肝炎	466(36%)	2. 肝硬変	232(18%)
B/C以外	383(29%)	3. 肝がん	197(15%)
B型及びC型肝炎	11(1%)	4. キャリアー	146(11%)
合計	1304	5. 脂肪肝、非アルコール性脂肪肝(NASH)	115(9%)
		その他	176
		無回答	51
		合計	1553

図 1

C-2 肝炎に感染していることで、差別を受けるなど、いやな思いをしたことがありますか。
 (B型肝炎444人、C型肝炎466人、B型・C型肝炎11人、計921人)

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 特に無い	719	78.1	83.9
2. いやな思いをしたことがある	138	15.0	16.1
無回答	64	6.9	
合計	921	100.0	100.0

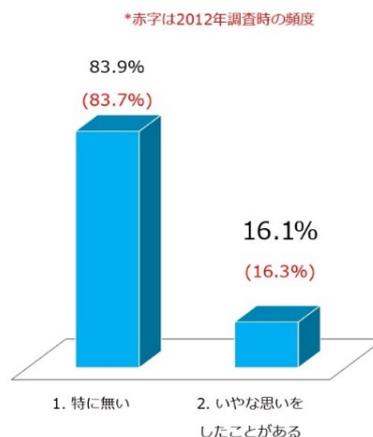


図 2

C-2 偏見差別「いやな思いをしたことがある」の頻度の検討
417人のB型肝炎患者での男女別、年齢層別 ※人数は無回答を除く

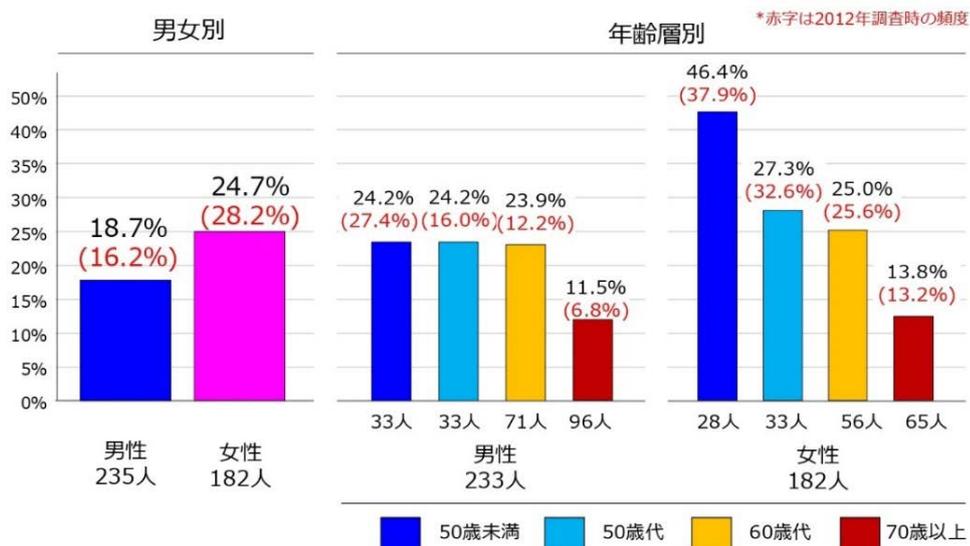


図 3

C-2 偏見差別「いやな思いをしたことがある」の頻度の検討
428人のC型肝炎患者での男女別、年齢層別 ※人数は無回答を除く



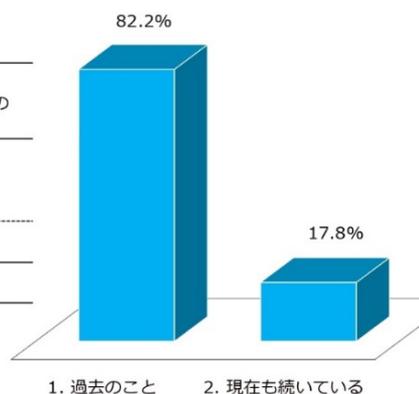
「いやな思いをしたことがある」と回答した 138 名を対象として、それは過去のことですか、現在も続いている話が尋ねたところ、

111 名（82.2%）が過去のこと、24 名（17.8%）が現在も続いていると回答した（図 4）。

図 4.

C-2-1（前問で、「2 いやな思いをしたことがある」と答えた方にお尋ねします。）
そのことは過去のことですか、現在も続いている話ですか。
(B型肝炎89人、C型肝炎47人、B型・C型肝炎2人、計138人)

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 過去のこと	111	80.4	82.2
2. 現在も続いている	24	17.4	17.8
無回答	3	2.2	
合計	138	100.0	100.0



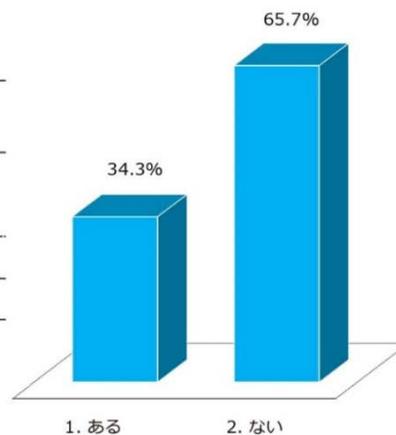
肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけていることがあるか尋ねたところ、921 名中 247 名（34.3%）

があると回答し、473 名（65.7%）はないと回答していた（図 5）。

図 5.

C-2-2 肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけていることがありますか。(B型肝炎444人、C型肝炎466人、B型・C型肝炎11人、計921人)

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. ある	247	26.8	34.3
2. ない	473	51.4	65.7
無回答	201	21.8	
合計	921	100.0	100.0



日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスがありますか、という設問に対しては、1304名中369名(31.6%)は

あると回答し、798名(68.4%)はないと回答していた(図6)。

図6.

F-11 日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。



D. 考察

肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成し2021年8月1日にHPの公開をおこなった。2022年2月末までに1200名のHPの閲覧アクセスがあり、理解度を自己学習するプログラムには2022年2月末までに335名が参加していた。まだこのHPの存在が知られていないと思われ、今後は広報活動をおこなうとともに集積された結果についても今後分析をおこなう予定である。

新型コロナウイルス感染流行時期ではあったが、偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムを2022年3月6日に東京駅近くの会議場で実施することができた。計40名近くの患者やその家族、市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題について問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなう

ことができた。参加者からの事後アンケート調査でも、とても有意義な企画であったというコメントが寄せられていた。

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査、アンケート調査を開始した。1304名から回収できたが、その中間成績をまとめると、肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある者の頻度は、16.1%であった。「いやな思いをしたことがある」と回答した者の特徴として、C型肝炎患者よりもB型肝炎患者で、男性よりも女性で、高齢者よりも若年者に多いという特徴がみられた。

「いやな思いをしたことがある」と回答した者を対象として、それは過去のことですか、現在も続いている話か尋ねたところ、82.2%が過去のことであると回答していた。偏見差別の経験は過去のことであると回答した者が多いことが今回初めて明らかとな

った。また、肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけている者の頻度は、34.3%であった。これは、過去にも現在においても「いやな思いをしたことがある」という経験のない者においても、日常生活で、いやな思いをしないように気をつけている者が少なくないことを示している。肝炎患者のこれらの心理模様については、今後十分検討する必要があると考えられた。

令和 3 年度の本アンケート調査結果は中間集計であり、令和 4 年度には最終報告をおこなう予定にしている。

E. 結論

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページを作成し、2021 年 8 月 1 日に HP の公開をおこなった。2022 年 2 月末までに 1200 名が HP の閲覧アクセスをおこない、理解度を自己学習するプログラムには 2022 年 3 月末までに 335 名が参加していた。

偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムを 2022 年 3 月 6 日に東京駅近くの会議場で実施した。計 40 名近くの患者やその家族、市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題について問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者アンケート調査を実施した。肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある者の頻度は、

16.1%で、「いやな思いをしたことがある」と回答した者の特徴として、C 型肝炎患者よりも B 型肝炎患者で、男性よりも女性で、高齢者よりも若年者に多いという特徴がみられた。しかしながら、「いやな思いをしたことがある」と回答した者を対象として、それは過去のことでか、現在も続いている話が尋ねたところ、82.2%が過去のことでありと回答していた。偏見差別の経験は過去のことでありと回答した者が多いことが今回初めて明らかとなった。また、肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけている者の頻度は、34.3%であった。これは、過去にも現在においても「いやな思いをしたことがある」という経験のない者においても、日常生活で、いやな思いをしないように気をつけている者が少なくないことを示している。肝炎患者のこれらの心の状態、心理模様については、今後十分検討する必要があると考えられた。

令和 3 年度の本アンケート調査結果は中間集計であり、令和 4 年度には最終報告をおこなう予定にしている。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

2022 年 3 月 18 日の肝炎対策推進協議会で、本研究班の活動報告をおこなった。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

資料1：肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページの内容

研究班HPのTopページ 最上部



2

研究班HPのTopページ 中間部



3

研究班HPのTopページ 最下部

このページを友人・家族に知らせる

Twitter Facebook LINE

このサイトは「ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究」の研究班により運営されています

**みんなで知ろう！～クイズでわかる
ウイルス肝炎の正しい知識**
肝炎患者さんとご家族への偏見・差別をなくそう！

ホーム 偏見差別相談事例 ご意見ご感想
研究紹介 肝炎コラム プライバシーポリシー
肝炎理解度クイズ 研究班専用ログイン サイトマップ

© 肝炎研究班 All Rights Reserved.

4

肝炎理解度クイズ 入口ページ 上部

ホーム > 肝炎理解度クイズ

肝炎理解度クイズ

1問1答形式のクイズで、ウイルス肝炎を正しく理解できる！

ウイルス肝炎は理解されにくく、誤解ゆえに生まれる差別や偏見で
今も苦しんでいる方がたくさんいらっしゃいます。

あなたも気づかずに加害者になっていることがあるかも…。
そんなウイルス肝炎を正しく理解しているかを確認できる、
1問1答形式のクイズをご用意しました！

回答者カテゴリを選んでください

一般の方 患者の方/ご家族の方 学生の方
 医師の方 医療従事者の方 医療事務員の方 医療系学生の方

クイズをはじめよう

入力情報は匿名のデータとして、
カテゴリ別の成績データ等に活用させていただきます。
それ以外の目的では利用されることはありません。

5

肝炎理解度クイズについて

肝炎理解度クイズの目的

ウイルス肝炎全般、特にウイルス肝炎の感染性についての理解度を把握するためのテストであり、正答を求めることを目的としているわけではありません。

より正しい知識を習得するうえで、回答の送信後に表示される解説が重要になりますので、最後の解説をぜひご覧ください。

また、入力情報は肝炎理解度の調査の一環として、集計・分析のためにのみ使用し、収集した情報をその他の目的に使用することはありません。

ブラウザバック、リロードに注意

クイズ途中で前のページへ戻ったりページを再読み込みしたりすると、回答内容がリセットされ最初に戻ります。

[クイズをはじめる](#)

このサイトは「ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別的解消を目指した研究」の研究班により運営されています

**みんなで知ろう！～クイズでわかる
ウイルス肝炎の正しい知識**

肝炎患者さんご家族への偏見・差別をなくそう！

ホーム 偏見差別相談事例 ご意見ご感想

研究紹介 肝炎コラム プライバシーポリシー

肝炎理解度クイズ 研究班専用ログイン サイトマップ

© 肝炎研究班 All Rights Reserved.

肝炎理解度クイズ スタート！

一般の方

第1問 //////

次の病気の内、咳から他人に感染する可能性がないものを1つ選んでください。

- インフルエンザ
- 肺結核
- 麻疹（はしか）
- B型肝炎
- いずれも感染の心配はない
- すべて感染する可能性がある

あと残り3問!

第2問

次の病気の内、食事を通じて感染する可能性があるものを1つ選んでください。

- B型肝炎
- O157感染症
- HIV感染症
- いずれも感染の心配はない
- すべて感染する可能性がある

8

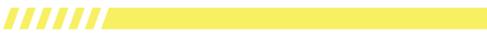
第3問

C型肝炎の患者さんと一緒に鍋料理を食べることになりました。食事をすることで、あなたが感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

- 0%
- 2% 前後
- 20% 前後
- 80% 以上
- わからない

あと残り1問!

9

第4問 

C型肝炎の患者さんを刺した蚊が、次にあなたを刺しました。あなたがC型肝炎に感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

- 0%
- 2% 前後
- 20% 前後
- 80% 以上
- わからない

[次のページへ](#)

すべての回答を完了しました！

回答お疲れ様でした。よろしければ、最後にあなたについて教えてください。

性別を教えてください

- 男性
- 女性
- 回答しない

年齢を教えてください

60代 

あなたは次のどれに当てはまりますか？

- 社員のまたは自営業
- 専業主婦
- 薬剤師
- その他：

このクイズは何回目ですか？

- 初めて
- 2回目
- 3回以上

12

最後にこのクイズの感想を教えてください

「難しい」「簡単すぎた」など、自由なご感想をお寄せください。

イトは「ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究」の研究班により運営され

© 肝炎研究班 All Rights Reserved.

13

結果発表！
1問 正解（全4問）

第1問

次の病気の内、咳から他人に感染する可能性がないものを1つ選んでください。

あなたの回答：B型肝炎

正解は...

B型肝炎

正解は...

B型肝炎

ここがポイント！

研究班のひとこと解説

咳をすることで他人にうつる可能性のある病気は、インフルエンザ、肺結核、麻疹（はしか）です。B型肝炎が咳をすることで感染することはありません。B型肝炎の感染経路は血液や体液を介して感染が成立する経血液感染です。

麻疹（はしか）(*1)は、飛沫感染、空気感染及び接触感染により感染します。感染力が非常に強いことが特徴です。発症者の隔離等のみで感染拡大を防止することは困難でワクチン接種が極めて有効な予防手段となります。

*1:参考文献：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）厚生労働省

第2問 

次の病気の内、食事を通じて感染する可能性があるものを1つ選んでください。

あなたの回答： HIV感染症

正解は...

O157感染症

正解は...

O157感染症

ここがポイント!

研究班のひとこと解説 

B型肝炎とHIV感染症は、血液や体液を介して感染が成立します。

O157感染症(*1)は、正式には腸管出血性大腸菌感染症とよばれ、ペロ毒素を産生する大腸菌による感染症です。その感染経路は、菌に汚染された生肉や加熱が不十分な肉、菌が付着した飲食物が原因となり、経口感染及び接触感染によって感染します。手洗い等の一般的な予防法を励行するとともに、食品の取扱い時に注意を徹底すること、プールの水を適切な濃度で塩素消毒することが重要です。なおワクチンは開発されていません。

*1:参考文献：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）厚生労働省

第3問 

C型肝炎の患者さんと一緒に鍋料理を食べることになりました。食事をする中で、あなたが感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

あなたの回答：20% 前後

正解は...

0%

正解は...

0%

ここがポイント!

研究班のひとこと解説 

C型肝炎の感染経路は、B型肝炎と同様に血液や体液を介して感染が成立する経血液感染です。

C型肝炎の患者さんとの食事や鍋料理を食べることで、C型肝炎が感染することはありません。

正解は、感染確率0%です。

第4問

C型肝炎の患者さんを刺した蚊が、次にあなたを刺しました。あなたがC型肝炎に感染する確率はどれくらいであるか、1つ選んでください。

あなたの回答：20% 前後

正解は...

0%

正解は...

0%

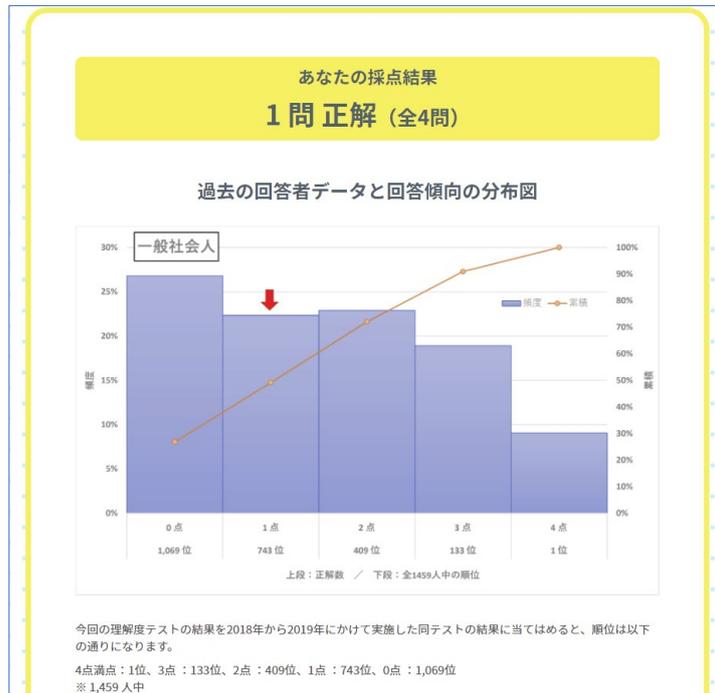
ここがポイント!

研究班のひとこと解説

蚊は人間を刺して吸血します。この血液にウイルスが含まれている場合には、ウイルスは蚊の中に入りますが、蚊の体内でウイルスが増殖することはありません。蚊に刺されたときには皮膚に少量の唾液（蚊の唾液）が入りますが、この唾液にはウイルスは存在しないと考えられます。したがって、蚊に刺されることでC型肝炎に感染することはありません。

正解は、感染確率0%です。

なおB型肝炎の場合も同様に、蚊に刺されることで感染することはありません。



偏見差別相談事例

患者さんやご家族から寄せられた実際の相談事例を紹介しています。

実際のご相談から患者さんやご家族の置かれている現状を具体的に知って、一緒に考えて見ましょう。



患者さんやご家族からの立場を本当に理解するには、実際にどのような事に直面しているのか、ご本人様たちの声を聞かずに通れません。

具体的な事例に触れることで、患者さんやご家族の置かれている現状が見えてくるはずですよ。

こんなご相談が寄せられています

カテゴリ： 医療機関（歯科）
就職
職場
介護施設
保育園

こんなご相談が寄せられています

カテゴリ: **医療機関 (歯科)** **就職** **職場** **介護施設** **保育園**

Q ウイルス排除後も歯科で治療を断られる。定期健診とか歯石除去も嫌がられる。

医療機関 (歯科) ご相談者: C型肝炎の患者さん 座談会での回答をみる >>>

Q 看護学校で看護師を目指している。実習の病院が受け入れを拒否する可能性もあると学校に言われた。B型肝炎だと看護師になれないのか。

就職 ご相談者: B型肝炎の女性 座談会での回答をみる >>>

Q 会社でこれまで肝炎ウイルス検査をしなかったのに、今年から始めると聞き悩んでいる。受けなくても大丈夫か?何か言われそうで不安。

職場 ご相談者: B型肝炎の患者さん 座談会での回答をみる >>>

Q 以前から施設に入居している子供がC型肝炎で、現在ウイルス排除に成功して2年経過した。治療前から入浴も食器も別にされていたが、今もその対応が続いている。施設側は、「再発の可能性があるから」と言うが、その後も陰性が続いており、肝機能も正常値。この対応がいつまで続くのか疑問。

介護施設 (1) ご相談者: C型肝炎の患者さんの家族 座談会での回答をみる >>>

Q 「どんな小さな傷があるかわからないので、お風呂は一番最後に入ってもらおう」と言われ傷つき、その後デイサービスを受けるのをやめた。

介護施設 (2) ご相談者: C型肝炎の患者さん 座談会での回答をみる >>>

Q 出産後、子供に母子感染防止のためのワクチンを打ったが、陽性になってしまった。B型肝炎のことも伝え上で保育園入園が内定したが、その後自宅待機を命ぜられた。

保育園 ご相談者: B型肝炎の子どもの母親 座談会での回答をみる >>>

ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究」の研修班により

偏見差別相談事例

患者さんやご家族から寄せられた実際の相談事例を紹介しています。

Q

ウイルス排除後も歯科で治療を断られる。定期健診とか歯石除去も嫌がられる。

医療機関（歯科）

ご相談者: C型肝炎の患者さん

A1

回答1

A2

回答2
(患者よりコメント)

A1 回答1

C型肝炎の方は、抗ウイルス治療を受けてウイルス学的に完治（体内からウイルスが完全に排除された状態）された方と、治療を受けておられない方に大別されます。ウイルス学的に完治された方では感染性はないことからC型肝炎であったことを歯科医院に伝える必要はありません。一方、まだ抗ウイルス治療を受けておられない方は、標準予防策（すべての人は伝播する病原体を保有していると考えた感染防止をおこなうこと）を実施している歯科医院で治療を受けられることをお勧めします。標準予防策を実施している歯科医院では、C型肝炎であってもそうでなくとも、患者さんへの対応や処置に差がないからです。なお医療機関や歯科医療機関の受診の際、ご自身の過去の病気や現在服用している薬剤について、医師や歯科医師に伝えることは、診断と治療をおこなう上で大切なことです。

A1 回答1

C型肝炎の方は、抗ウイルス治療を受けてウイルス学的に完治（体内からウイルスが完全に排除された状態）された方と、治療を受けておられない方に大別されます。ウイルス学的に完治された方では感染性はないことからC型肝炎であったことを歯科医院に伝える必要はありません。一方、まだ抗ウイルス治療を受けておられない方は、標準予防策（すべての人は伝播する病原体を保有していると考えた感染防止をおこなうこと）を実施している歯科医院で治療を受けられることをお勧めします。標準予防策を実施している歯科医院では、C型肝炎であってもそうでなくとも、患者さんへの対応や処置に差がないからです。なお医療機関や歯科医療機関の受診の際、ご自身の過去の病気や現在服用している薬剤について、医師や歯科医師に伝えることは、診断と治療をおこなう上で大切なことです。

メモ：C型肝炎患者の患者さんでウイルス学的に完治されても血小板数が少ない方では、抜歯などの観血的処理の時に止血シーネなどの準備ないし血小板数を増やす治療が必要となることがあります。その場合には、かかりつけ医から歯科医へ紹介状を作成してもらいましょう。

A2 回答2 (患者よりコメント)

「嫌な思いをするなら歯科で肝炎であることを伝える必要はないと思います。ただ、私たち肝炎患者は他の方に感染させたくありませんし、自分も他の感染症にはかかりたくありません。そのため、標準予防策をきちんと実施している歯科にかかるべきだと思います。しかし現時点では、標準予防策を徹底していない歯科医院も少なからずみられます。その場合、肝炎であることを伝えると順番を最後にされたり、診療を断られることもあります。歯科にかかる際は、事前に電話で肝炎でも診てもらえるかどうかを確認することをお勧めします。」

一覧へ戻る ↩

更に深く知りたい方に

司会

事例①は歯科医療の問題です。C型肝炎の方から「ウイルスがあるときから歯科通院で嫌な思いをしています。3軒に治療を断られた経験があります。ウイルスが排除されても丁寧に診てもらえないです。定期検診とか歯石の治療も嫌がられます」というご相談です。

元患者A

この電話相談は、B型でもC型でも皆さん経験のある内容です。私は「患者の方から特に伝える必要はない」と回答しています。

司会

実際に患者さんとしてどういうことを経験されたか、元患者のBさんお願いします。

元患者B

「自分自身が肝炎患者であることをいわないと後ろめたい」という患者がいます。直接歯科医院に行っ

元患者B

「自分自身が肝炎患者であることをいわないと後ろめたい」という患者がいます。直接歯科医院に行っ たときに自分が肝炎患者であることをいったために嫌な思いをすることがあるという相談が多くあり まして、そういう方には行く前にお電話をして自分が肝炎患者であるけれども診ていただけるかどうか という話をしてみたら、ハードルが低くなって嫌な思いをせずに済むのではないかなというなお話を させていただいています。

司会

元患者のCさんは何かご経験ございますか。

元患者C

私自身は差別されたとかいう経験はありません。母子感染させた子どもたちの歯科治療をしてくださる 歯科医院に巡り会え、ほかの患者と区別なく治療を受けてきました。肝炎に感染していると知らなかった頃は普通に受診していました。「肝炎患者だ」と申告した患者だけ 診療拒否したり順番を最後に回したりするのは、申告せずに治療を受ける方もいらっしゃるので感染予 防としては不完全なものだと思います。肝炎患者であると歯科治療の際申告することをためられる患 者が多いです。「断られるのではないか」「ほかの人に知れるのではないか」など、ものすごく不安を 抱え治療を受けられています。ある歯科医の「こんなに問診票で、患者さんが悩み苦しんでいるとい うのを初めて知りました」という話を聞いて、医療者側と感染症を持つ患者との距離があまりにもありす ぎると思いました。

司会

歯科の診療の現場では歯科医はほかの患者さんに感染をさせてはいけないという思いでいろいろな対策 をとっていますが、実際何が特別な扱いを受けたことがありますか。

元患者B

私もウイルスがあるときに診察室に入ったら、先生と衛生士さんが防護服とラップでした。ウイルスが なくなったり、やっぱり同じ状態だったのです。治ったからということも患者からいってもなかなか

元患者B

私もウイルスがあるときに診察室に入ったら、先生と衛生士さんが防護服とラップでした。ウイルスがなくなったり、やっぱり同じ状態だったのです。治ったからということを患者からいってもなかなか理解していただけて、「また復活するのではないですか」ということをいわれて、そのときにとっても嫌な思いをしました。結局どうしたかという私は治ったという先生の診断書を持っていったと納得していただいたことがありました。

司会

ラップというのはどういう？

元患者B

椅子とか、器具類をラップで巻かれていたのと、衛生士さんや先生が宇宙服みたいな服装で特別な個室でした。その当時は衛生面で不十分だったからなのかと理解しながら診察を受けていました。治っても、治らなくてもさまざまな感染症の人がいるわけで、ちょっとそれはどうなのかなと疑問に思いました。

元患者A

今お話にしましたが、歯科ではほかの人と違った対応をされるということがあります。それが例えばラップです。肝炎患者が診察室に入った途端に椅子や周辺機器などにバートとラップを巻き始めるのですね。それってあまりいい気分ではないですね。説明がまったくない状態でそういうことをされるので「なんで？」とまずびっくりしてしまいます。ひどい場合は診療拒否されます。一切説明がないままに、「肝炎の患者はうちではお断りしています」という対応をとられることもあります。

医療従事者B

実際には受診を予約されるところと、フリーに受診するところと両方あると思いますが、診療拒否は電話予約の段階でも、あるいは歯科医院に行って、「診療をお願いします。実は私はウイルス肝炎に感染しています」といってその場で断られる。両方あるということでしょうね。

実際には受診を予約されるところと、フリーに受診するところと両方あると思いますが、診療拒否は電話予約の段階でも、あるいは歯科医院に行って、「診療をお願いします。実は私はウイルス肝炎に感染しています」といってその場で断られる。両方あるということでしょうね。

医療従事者A

昔は結構多かったのでしょうか。

元患者A

今もありますね。

医療従事者A

今でもあるのですか。過去形ではないのですか。

元患者A

つい最近も泣きながら電話をかけてきたB型肝炎の方がいらっしゃいました。

元患者C

2019年9月から原告団でアンケートを取り始めたのですが、8件の診療拒否というのがあがっていました。

元患者A

診療拒否はいわゆる標準予防策がなされていないと私どもも判断できるので、きちんと説明していただければ患者も納得すると思いますが、説明が一切なく、肝炎患者お断りというような感じで断られてしまうので、患者としてはびっくりするのと、ショックを受けてしまうのだと思います。

医療従事者A

あとは診察の順番が最後にされるとか、そういうこともありますか。

元患者A

あります。それはわりと一般的ですね。

元患者B

時間を指定されて最後の時間にされることはありますね。

元患者A

自分の好きなときに診てもらえない。

医療従事者A

今までは歯科の話でしたが、例えば病院においても昔、内視鏡検査でB型肝炎やC型肝炎の患者さんの検査の順番は最後にしていたという時期がありました。ただ、20年以上前から内視鏡は完全洗浄していますので、ウイルス肝炎の患者さんも、そうでない患者さんも、まったく検査も前後の処置も同じです。今では医科系の病院では標準予防策は徹底されていると思います。しかしながら歯科の方は標準予防策をとりつつもまだ浸透していないのか、徹底していないのかなと思ったりします。

元患者C

先ほどラップのお話がありました。平成26年に生まれた一般歯科診療時の院内感染対策に係る指針の中に、患者ごとのラッピングが感染対策に有効と書かれています。このようにラッピングは患者ごとであって、肝炎患者だと申告した人だけにラッピングではないのです。それから、肝炎患者だと人に知られたくないと思ってずっと暮らしてきた人たちもいらっしゃるんですね。そういう方たちが歯の治療を受けるために申告しなくてはいけないという辛さや、ほかの人に知れるのではないかと不安というのを歯科医にわかっていただきたいです。標準予防策が徹底され、区別なく歯科の治療が受けられるようになるとよいと思います。

れたくないと思ってずっと暮らしてきた人たちもいらっしゃるんですね。そういう方たちが歯の治療を受けるために申告しなくてはいけないという辛さや、ほかの人に知れるのではないかと不安というのを歯科医にわかっていただきたいです。標準予防策が徹底され、区別なく歯科の治療が受けられるようになるとよいと思います。

＼スピーカー紹介／



八橋 弘先生

国立病院機構長崎医療センター 副院長。肝臓内科が専門。「ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別的解消を目指した研究」の研究班代表。



四柳 宏先生

東京大学医科学研究所 教授。元は消化器内科が専門であったが、現在は感染症という切り口から肝炎を診ている。



米澤 敦子氏(司会)

東京肝臓友の会 事務局長。東京肝臓友の会では、日々電話相談窓口を設けて患者、家族の方から電話相談を受けており、今回の事例もその相談の一部です。

	中島 康之先生 全国B型肝炎訴訟大阪弁護団弁護士。弁護団弁護士として主に肝炎患者さんの支援などを担当。
	梁井 朱美氏 全国B型肝炎訴訟九州原告団。現在慢性肝炎を患いながらも、抗ウイルス薬でウイルスをコントロールしながら活動。
	及川 綾子氏 業害肝炎全国原告団。東京肝臓友の会で電話相談を手伝っている。
	浅井 文和氏(司会) 日本医学ジャーナリスト協会会長、元朝日新聞編集委員。ジャーナリストとして肝炎の記事を数多く執筆。

	是永 匡紹先生 国立国際医療研究センター・肝炎情報センター 肝疾患研修室長。消化器・肝臓内科が専門。
	磯田 広史先生 佐賀大学医学部附属病院・肝疾患センター 助教。肝臓が専門。普段は「なんでも相談窓口」を担当している相談員も兼務。

[一覧へ戻る](#) ↗

研究紹介

当研究についてご紹介します。

目的



肝炎対策基本指針において、肝炎についての正しい知識を普及し、これにより肝炎患者等に関わる者が肝炎患者に対して適切な対応を行うことができるようにすることが必要であるとされています。

これまで政策研究で実施された肝炎患者に対する偏見や差別に関する調査において、その実態が継続的に示されているが、それらをどのように伝え、偏見や差別を解消するための方策につなげていくかについては十分な検討がなされていません。

偏見や差別の解消のために、既存の方法に加え、ソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討します。特に、肝炎患者と関わる機会が多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法についての検討を行います。

研究組織

研究組織

研究代表者	八橋 弘	国立病院機構長崎医療センター 副院長
研究分担者	四柳 宏	東京大学医科学研究所 教授
	米澤 敦子	東京肝臓友の会 事務局長
	中島 康之	全国B型肝炎訴訟大阪弁護団 弁護士
	梁井 朱美	全国B型肝炎訴訟九州原告団
	及川 綾子	薬害肝炎全国原告団
	浅井 文和	日本医学ジャーナリスト協会 会長
	是永 匡昭	国立国際医療研究センター 肝炎情報センター 肝炎研修室長
修室長	磯田 広史	佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 助教

沿革

- 1 平成23年度から3年間、龍岡資見元学習院教授による「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班が組織され研究が実施されました。
- 2 平成28年には肝炎対策基本指針の改定が行われ、肝炎患者等に対する不当な差別や、それに伴う肝炎患者等の精神的な負担が生じることのないよう、正しい知識を身に付け、適切な対応に努めることなどが明記されました。
- 3 平成29年度から3年間は、「肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への効果的な手法の確立に関する研究」班が組織され研究が実施されました。

啓発資材：感染防止ガイドラインなど

- ウイルス肝炎の伝播を防ぐためのガイドライン（日常生活編） 
- ウイルス肝炎の伝播を防ぐためのガイドライン（保育施設編） 
- 高齢者施設における肝炎対策のガイドライン 
- 参考文献：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）厚生労働省 

このサイトは「ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究」の研究班により運営されています



**日常生活の場で
ウイルス肝炎の伝播を防止するための
ガイドライン
(一般の方向け)**

このガイドラインは、ウイルス肝炎の伝播（でんぱ：病気が人から他の人にうつること）を防ぐために、一般の方が日常生活の場で注意すべき点について述べています。

肝炎ウイルスに感染する可能性のある行為..... 4
肝炎ウイルスに感染する可能性のない行為..... 5

第1部 日常生活の場での感染を防ぐために注意すべきこと

- 1 はじめに 6
- 2 すべての人のからだには微生物が存在しています 8
- 3 排泄物や体液のついたものに触れる際の注意 9
- 4 排泄物や体液を介した感染を防ぐために 11
- 5 ワクチンで予防できる感染症もあります 12

第2部 ウイルス肝炎の伝播を防ぐために

- 1 肝炎、ウイルス肝炎とはどのような病気か 13
- 2 ウイルス肝炎とその伝播経路 14
 - ① A型肝炎・E型肝炎
 - ② B型肝炎・C型肝炎
- 3 B型肝炎とC型肝炎の伝播を防ぐために 18
- 4 感染が起らないと考えられる代表的な日常行為 19
- 5 B型肝炎とC型肝炎の違い 21

 <p style="text-align: center;">保育の場において 血液を介して感染する病気を防止するための ガイドライン —ウイルス性肝炎の感染予防を中心に—</p>	目次
	<p>保育施設に勤務される方にとって頂きたいこと..... 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ☀️ 感染症とはどのような病気か ☀️ 保育施設で問題となる感染症にはどのようなものがあるか？ ☀️ 感染経路 ☀️ 予防接種 <ul style="list-style-type: none"> ☀️ 予防接種にはどのようなものがあるか ☀️ 保育園に入る前に済ませておきたい予防接種 ☀️ ウイルス性肝炎に対する予防接種について
	<p>ウイルス性肝炎について..... 16</p> <ul style="list-style-type: none"> ☀️ ウイルス性肝炎とはどのような病気か ☀️ ウイルス性肝炎とその伝播経路 ☀️ B型肝炎とC型肝炎 <ul style="list-style-type: none"> ☀️ 保育園での生活と感染症 ☀️ 保育園における衛生管理 ☀️ 職員の衛生管理 <ul style="list-style-type: none"> ☀️ 感染症から自らを守るために何が必要か ☀️ 自分が肝炎ウイルスキャリアの場合、何に注意すべきか
	<p>園児や保護者への指導のポイント..... 32</p> <ul style="list-style-type: none"> ☀️ 保育園に入る前に済ませておきたい予防接種

高齢者施設における 肝炎対策のガイドライン



高齢者施設における肝炎対策のガイドライン

2014(平成26)年3月 発行

厚生労働省
集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班
研究代表者 四柳 宏 (東京大学医学部附属病院)

執筆者 稲松 孝思、四柳 宏
協力者 浦山京子、谷口 優、福島 智子、山田 和彦 (50音順)



ご意見/ご感想/お問い合わせ

当研究班一同、皆さまからのお声をお待ちしています。

どんなご用件でしょうか？ 必須

選択してください

お名前 (ニックネームでも可)

メールアドレス

年齢

選択してください

年齢
選択してください ▾

性別
 男性
 女性
 答えたくない

お住まいの地域 (都道府県)
選択してください ▾

あなたについて教えてください
選択してください ▾

内容 **必須**

情報の公開の可否 **必須**

※ お問い合わせ内容につきまして、当研究班内で周知を図ることが好ましいと判断したものにつきましては、個人を特定する情報等を除去したうえで適切に編集し、「偏見差別相談事例」や「肝炎コロナム」などの場で内容を公開する場合があります。

公開に同意
 同意しない

プライバシーポリシーに同意 **必須**

[プライバシーポリシーへ](#)

送信に際し、「プライバシーポリシー」ページに記載の趣旨を理解して同意します。

このサイトは「ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究」の研究班により運営されています

© 肝炎研究班 All Rights Reserved.

資料2:

厚生労働行政推進調査事業補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「ソーシャルメディア等を活用した
肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究」

先着**70名**
限定

お申込み方法は
裏面をご確認
ください。

肝炎患者のおかれた 状況について考える 公開シンポジウム

東京

2022 **3月6日**

13:00 ~ 15:30
(開場 12:30)

ステーションコンファレンス東京
会議室 503 A+B+C+D

ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究班では、肝炎対策基本指針において、肝炎患者等が不当な差別を受けることなく社会において安心して暮らせる環境づくりを目指すとしており、そのための具体的・効果的な手法の確立を目指した研究をおこなっています。

今回、一般市民、肝炎患者、医療従事者の方を対象として、肝炎患者の偏見や差別についてともに考える公開シンポジウムを左記のように開催いたします。

関心のある方に参加いただきたく思います。

研究班代表 八橋 弘
(国立病院機構長崎医療センター 副院長)

Program

【開会挨拶】 八橋 弘

〔司会〕 四柳 宏
東京大学医科学研究所教授

〈研究班報告〉
八橋 弘

〈偏見や差別に関する相談事例の紹介〉
米澤 敦子
東京肝臓友の会事務局長

【休 憩】 13:35 ~ 13:50

【パネルディスカッション】

〔司会〕 米澤 敦子・浅井 文和
特定非営利活動法人
日本医学ジャーナリスト協会 会長

〈パネリスト〉

八橋 弘
四柳 宏
梁井 朱美
全国B型肝炎訴訟九州原告団

及川 綾子
薬害肝炎全国原告団
中島 康之
全国B型肝炎訴訟大阪弁護団弁護士

〈コメンテーター〉

磯田 広史
佐賀大学医学部附属病院
肝疾患センター 副センター長
是永 匡紹
肝炎情報センター
肝疾患研修室長

【閉会挨拶】 八橋 弘

※入場の際には「健康チェック」及び「新型コロナウイルス抗原検査」を実施する予定です。

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
肝疾患相談支援センター

受付時間：平日（9：00～14：30）
TEL：0957-52-3121（代）



◆ステーションコンファレンス東京



所在地

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー内
TEL : 03-6888-8080

アクセス

- JR線(JR東京駅日本橋口直結)
 - ・東京駅 新幹線専用改札口(日本橋)より徒歩1分
 - ・八重洲北口改札口より徒歩2分
- 地下鉄
 - ・東京メトロ東西線大手町B7出口から直結

※お車でお越しの方は、ビル内の時間貸し駐車場をご利用ください。

お申込み方法

隣の方との間隔をあけて座席をご用意しておりますので、座席数を70席に限定しております。
当日、参加を希望される方は右のQRコードを読み取って事前のお申込みをお願い致します。
下記のURLからもご確認いただけます。

※参加人数が70名に達した時点で、申込みを締め切らせて頂きます。

<https://kanen-soudan.com/>

上記の『ウイルス肝炎、ウイルス肝炎患者について理解を深めましょう』ホームページ内に申込みフォームがございます。

申込みフォームに入力頂きました個人情報につきましては、公開シンポジウムの参加登録にのみ使用させていただきます。公開シンポジウム終了後は、個人情報を破棄いたします。



資料3：ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査
(アンケート内容)

2021/5/6

～肝臓病患者さんの病態と生活に関するアンケート調査～
より良い毎日のために

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）

【ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究】班
研究代表者 八橋 弘

お問合せ先 担当者：八橋 弘 電話(代表)：0957-52-3121
(国立病院機構長崎医療センター 副院長)

はじめに

本アンケート調査では、肝臓病を患っておられる患者さんに、病気の状態と生活の状況をお尋ねした上で、その結果をまとめて集計、分析を行い、肝臓病患者さんが、何にお困りなのか、何をお悩みなのかを明らかにしたいと考えています。

患者さんによっては病状が重い方、軽い方がおられます。また、経済的に支援が必要な方や家族、職場の方々の理解と協力が得られていない方などがおられます。

そのような様々な状況にある肝臓病患者さんの状況を把握するため、私たちは 2012 年に、このアンケートと似た内容のアンケート調査を実施しました。その結果を報告することで、一部の内容についてはその後の肝炎政策に反映させることができました。ご協力いただいた皆様には御礼を申し上げます。その後の治療法の進歩によって、多くの C 型肝炎患者さんはウイルスを駆除されましたが、その一方で、今後も治療を継続しなければならない多くの肝臓病の患者さんがおられます。今回のアンケート調査は 2012 年の状況と比較することも目的としています。多くの質問内容に答えていただくために、お尋ねしたい点が多くなりました。これらにご記入いただくに当たっては 30 分以上の時間が必要となり、ご負担をおかけすることを大変心苦しく思っております。

しかし、ひとりひとりの肝臓病患者さんが、このアンケートにお答えいただくことで、肝臓病の患者さんの苦悩を少しでも明らかにしたいと思っております。また、今回も本アンケート調査結果を国としての肝炎対策に反映させることで、肝臓病患者さんには今よりもより良い毎日を送っていただいと願っています。

本アンケート調査に、ご協力いただければ幸いです。

八橋 弘

- ・本アンケート調査は、独立行政法人国立病院機構の肝疾患共同研究施設の1つである、当院の肝臓専門外来を受診されている患者さんに、ご協力をお願いしております。
- ・本アンケートは無記名（名前を書かない）アンケート調査です。
- ・秘密の保護には万全を期していますので、ありのままを記入してください。
- ・分からない質問や、答えにくい質問には、お答えいただく必要はありません。
- ・記入に当たっては特に説明がない限り、あてはまる番号1つに○をつけてください。
- ・本アンケートを記入するにあたって、質問事項を一読されてから記入されることをお勧めします。

研究事業名：厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）

研究課題名：ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究

調査責任施設：独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター

部 署：臨床研究センター 治療研究部

調査責任者：八橋 弘

お問合せ先：担当 八橋 弘 電話(代表)：0957-52-3121

(独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 副院長)

解析実務委託：株式会社トータルナレッジ

(東京都千代田区九段北4-2-2 桜ビル701号)

調査期間：令和3年6月7日～令和4年3月31日（当日消印有効）

調査票のご記入後、同封の返信用封筒にて、令和4年3月31日までに郵送をお願いします。

A. あなたとあなたの世帯について、お尋ねします。

世帯とは、住居と生計をともにしている方々（世帯員）の集まりをいいます。

A-1 あなたの現在のお住まいを教えてください。

_____（都、道、府、県）

_____（市、区、郡）

A-2 あなたの出生年月を教えてください。元号に○をつけて、年月をお答えください。

1 明治

2 大正

3 昭和

4 平成

_____年 _____月

A-3 あなたの性別を教えてください。

1 男性

2 女性

A-4 あなたの身長と体重を教えてください。

・身長 _____ cm

・体重 _____ kg

A-5 配偶者はいますか（配偶者は事実上夫婦として生活している場合も含みます）

1 配偶者がいる

2 未婚

3 死別

4 離別

A-6 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか。1に○をつけた方はA-10に進んでください

1 ひとり住まい

2 家族・親族と同居

3 友人・知人と同居

4 施設に入居

5 その他（ _____ ）

A-7 ふだん一緒にお住まいで生計をともにしている方（世帯員）は、あなたを含めて何人ですか。（A-6 で1と答えたひとり住まいを除く）

_____人

そのうち収入のある方は _____人

A-8 あなたの世帯には、18歳未満の方はいますか。

- 1 いる
- 2 いない

A-9 あなたの世帯は、65歳以上の方のみですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

A-10 あなたや家族の中で、日常的に介護が必要な方はどなたですか。

- 1 本人
- 2 家族
- 3 いない

A-10-1 介護が必要な状況をお答えください。

- 1 常時必要
- 2 たまに必要

A-11 現在お住まいの住居について教えてください。

- 1 持ち家
- 2 民間・公営賃貸住宅
- 3 社宅・公務員住宅
- 4 間借り
- 5 その他

A-12 あなたの世帯で車をお持ちですか。

- 1 持っている
- 2 持っていない

A-13 あなたは世帯主または世帯を代表する方ですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

A-14 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。

- 1 大変苦しい
- 2 やや苦しい
- 3 ふつう
- 4 ややゆとりがある
- 5 大変ゆとりがある

A-15 あなたの世帯の令和2年（令和2年1月1日～12月31日）の所得額[※]はどのぐらいでしたか。

- 1 100万円未満
- 2 100～300万円未満
- 3 300～600万円未満
- 4 600～1000万円未満
- 5 1000万円以上
- 6 答えたくない

※なお、所得額とは、

○給与所得のみの方は、事業主が発行する給与所得の源泉徴収票の支払額欄に記された金額のことです。

○確定申告をされている方は、所得税の申告書の所得金額合計欄に記された金額のことです。

B. あなたの病気の状態について、お尋ねします。

B-1. あなたの肝臓病の状態についてお尋ねします。

B-1-1 あなたの病名は何と言われてありますか。当てはまる番号に○を付けてください。

- 1 慢性肝炎
- 2 肝硬変
- 3 肝がん
- 4 キャリアー
- 5 脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）
- 6 その他
- 7 P B C
- 8 A I H

B-1-2 あなたの肝臓病の原因は何と言われてありますか。

- 1 B型ウイルス感染
- 2 C型ウイルス感染
- 3 生活習慣（食事、飲酒）
- 4 その他（ ）

B-1-3 肝臓病と分かってからおよそ何年経ちましたか。

- 1 5年未満
- 2 5年以上
- 3 10年以上
- 4 20年以上
- 5 30年以上

B-1-4 今の体の状態について、あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1 体がだるい | 10 手足がつる |
| 2 食欲がない | 11 一人では歩けない |
| 3 夜良く眠れない | 12 息が苦しい |
| 4 体がかゆい | 13 黄疸がある（目が黄色い） |
| 5 喉が渇く | 14 手足の皮膚に、自然と出血したあとがでる |
| 6 お腹が痛む | 15 手が紅いと主治医から言われている |
| 7 お腹が張る | 16 その他（ ） |
| 8 足がむくむ | |
| 9 手がよく震える | |

B-2. 普段のあなたの健康状態についてお尋ねします。あてはまる番号1つに○をつけてください。

B-2-1 歩いて移動するとき、どの程度不便を感じていますか。

- 1 不便ではない
- 2 少し不便
- 3 中程度
- 4 かなり不便
- 5 歩き回ることができない

B-2-2 自分で身体を洗ったり着替えをするなど、身の回りのことをするのに、どの程度問題がありますか。

- 1 問題はない
- 2 少しある
- 3 中程度
- 4 かなりある
- 5 身の回りのことができない

B-2-3 普段の活動（仕事、勉強、余暇活動など）を行うのに、どの程度問題がありますか。

- 1 問題はない
- 2 少しある
- 3 中程度
- 4 かなりある
- 5 活動できない

B-2-4 痛みや不快感は、どの程度ありますか。

- 1 ない
- 2 少しある
- 3 中程度
- 4 かなりある
- 5 極度の痛みや不快感がある

B-2-5 不安やふさぎ込みは、どの程度ありますか。

- 1 ない
- 2 少しある
- 3 中程度
- 4 かなりある
- 5 極度の不安やふさぎ込みがある

B-3. 最近のあなたの血液検査の結果についてお尋ねします。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

B-3-1 血小板の数はいくらですか。

- 1 10万未満
- 2 10万～15万未満
- 3 15万～20万未満
- 4 20万以上
- 5 わからない

B-3-2 AFP（アルファフェトプロテイン）の値はいくらですか。

- 1 6未満
- 2 6～20未満
- 3 20以上
- 4 わからない

B-3-3 Alb（アルブミン）の値はいくらですか。

- 1 4.0 g/dl 以上
- 2 3.5 g/dl 以上 4.0 g/dl 未満
- 3 3.0 g/dl 以上 3.5 g/dl 未満
- 4 3.0 g/dl 未満
- 5 わからない

B-4. 現在、肝臓病で治療を受けている医療機関についてお尋ねします。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

B-4-1 最近1年間で、何回入院しましたか。

- 1 過去1年間は入院していない
- 2 過去1年間に1回入院した
- 3 過去1年間に2回入院した
- 4 過去1年間に3回以上入院した

- B-4-2 最近1年間は、どれくらいの通院頻度でしたか。
- 1 1ヶ月に1回程度
 - 2 2ヶ月に1回程度
 - 3 3ヶ月に1回程度
 - 4 半年に1回程度
 - 5 1年に1回程度
 - 6 それ以外 ()
- B-4-3 肝臓病の治療のために、最近1ヶ月間で病院に支払った医療費（診察・検査・薬代）および交通費の総額は、およそいくらでしたか。
- 1 5千円未満
 - 2 5千円～1万円未満
 - 3 1～3万円未満
 - 4 3～5万円未満
 - 5 5万円以上
- B-4-4 肝臓病の治療のために、最近1年間で病院に支払った医療費（診察・検査・薬代）および交通費の総額は、およそいくらですか。
- 1 10万円未満
 - 2 10～20万円未満
 - 3 20～30万円未満
 - 4 30～50万円未満
 - 5 50～100万円未満
 - 6 100万円以上
- B-4-5 1回の通院にかかる時間（片道）はどのくらいですか。
- 1 1時間未満
 - 2 1～2時間未満
 - 3 2～3時間未満
 - 4 3時間以上
- B-4-6 1回の受診で受付から会計を済ませるまでの、病院での必要時間はどのくらいですか。
- 1 2時間未満
 - 2 2～4時間未満
 - 3 4～6時間未満
 - 4 6時間以上

C. ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）の方にお尋ねします。

該当しない方は、Dに進んでください。

C-1 肝炎の感染経路について主治医からどのように説明を受けていますか。

- 1 手術（出産含む）の輸血・止血剤
- 2 集団予防接種
- 3 家族内感染（母子感染、父子感染）
- 4 感染経路はわからない
- 5 説明を受けていない
- 6 その他（ ）

C-2 肝炎に感染していることで、差別を受けるなど、いやな思いをしたことがありますか。

- 1 特に無い
- 2 いやな思いをしたことがある

（具体的なことがあれば、かっこの中にお書きください）

[]

C-2-1 （前問で、「2 いやな思いをしたことがある」と答えた方にお聞きします。）

そのことは過去のことで、現在も続いている話ですか。

- 1 過去のこと
- 2 現在も続いている

C-3 （C型肝炎の方にお聞きします。）ウイルスは排除されましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 その他（検査中、検査結果待ち、など）

C-3-1 （前問で「はい」と答えたかにお聞きします。）

ウイルスが排除されてから何年になりますか。

- 1 5年未満
- 2 5年以上－10年未満
- 3 10年以上
- 4 その他（わからないなど）

C-4 (B型肝炎の方にお聞きします。) 核酸アナログ製剤を服用されていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 その他 (わからない、検討中)

C-4-1 (前問で「はい」と答えた方にお聞きします。)

核酸アナログ製剤を服用されてから何年になりますか。

- 1 5年未満
- 2 5年以上-10年未満
- 3 10年以上-15年未満
- 4 15年以上
- 5 その他 (わからない)

C-5 (肝硬変・肝がんの方にお聞きします)

肝がん・重度肝硬変医療費助成制度について、ご存じですか。

- 1 知っている
- 2 知らない

C-5-1 (前問で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします)

助成制度は誰からお聞きになりましたか。(複数回答可)

- 1 主治医
- 2 看護師
- 3 肝炎医療コーディネーター
- 4 通院中の病院の窓口担当者
- 5 患者会
- 6 インターネット・広報誌
- 7 行政機関
- 8 その他 ()

D. 肝硬変と診断された方にお尋ねします。

該当しない方は、Eに進んでください。

D-1 吐血したことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

D-2 食道静脈瘤に対する内視鏡（胃カメラ）治療（食道静脈瘤結札術：EVL）を受けたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

D-3 肝硬変が原因でお腹に水（腹水）が溜まっていると言われたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

D-4 お腹に水（腹水）が溜まっていると言われたことがある方にお尋ねします。
治療として、お腹の水（腹水）を針を刺して抜き取った経験をお持ちですか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

D-5 肝性脳症（肝臓の状態がよくないことが原因で脳の機能が一時的に低下した状態）で、意識をなくしたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

D-6 足元がふらついて一人で歩くことができないことや、人からの介助がないと歩くことができないことが、この1ヶ月間にどの程度ありましたか。

- 1 常時あった
- 2 1日に1回程度
- 3 週1回程度
- 4 月に1回程度
- 5 全くなかった
- 6 わからない

D-7 腹水、黄疸などの身体症状を伴う肝硬変の患者さんや、肝臓移植を受けられた患者さんでは、平成22年4月から身体障害者手帳の交付を受けられるようになっていますが、このことをご存知ですか？

- 1 知らなかった
- 2 知っている

D-8 肝臓病患者さんの身体障害者手帳の交付について知っている方（D-7の質問で2を選択した方）にお尋ねします。

現在、肝機能障害による身体障害者手帳をおもちですか。

- 1 持っている
- 2 持っていない

D-9 現在、肝機能障害による身体障害者手帳を持っていない方（D-8の質問で2を選択した方）にお尋ねします。その理由をお教えてください。

- 1 申請したが、非該当だった
- 2 申請しなかった
- 3 申請中
- 4 その他（ ）

D-10 肝機能障害による身体障害者手帳をお持ちの方（D-8の質問で1を選択した方）にお尋ねします。

身体障害者手帳に記載されている等級をお答えください。

- 1 1級
- 2 2級
- 3 3級
- 4 4級

F. あなたの日常生活や仕事の状況などについて、お尋ねします。

F-1 同居している方々は、あなたが肝臓病であることをご存知ですか。

- 1 全員が知っている
- 2 一部の人が知っている
- 3 全員知らないと思う

F-2 同居している方々は、あなたの肝臓病に理解を示していますか。

- 1 良く理解していると思う
- 2 おおよそ理解していると思う
- 3 理解していないと思う
- 4 全く理解していないと思う

F-3 病気のことで、あなたが最も気軽に相談できる方はどなたですか。

- 1 家族・親族
- 2 知人・友人
- 3 近所の人
- 4 職場の同僚
- 5 患者会の方々（肝臓友の会など）
- 6 医師
- 7 看護師
- 8 肝炎医療コーディネーター
- 9 患者仲間（インターネットも含む）
- 10 相談できる人がいない
- 11 その他（ ）

F-4 あなたの主治医は、あなたの質問に親切に答えてくれますか。

- 1 良く答えてくれている
- 2 まあ答えてくれている
- 3 あまり答えてくれない
- 4 まったく答えてくれない

- F-5 あなたの日常の生活状況について教えてください。
- 1 一人で自由に外出が出来る
 - 2 一人で外出は出来るが困難を伴う
 - 3 一人では外出できず介助が必要である
- F-6 病気が、仕事や家事に与えた影響の度合いについてお聞かせ下さい。
- 1 病気にかかる前と同様に仕事や家事を続けている
 - 2 病気のために仕事や家事の時間を減らしたり、仕事や家事の種類、内容を変更したりした
 - 3 病気のために仕事や家事を辞めた
 - 4 その他
- F-7 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気のことを知らせていますか。
- 1 知らせている
 - 2 知らせていない
- F-8 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気に理解を示してくれていますか。
- 1 良く理解してくれている
 - 2 一応、理解してくれている
 - 3 あまり理解してくれない
 - 4 全く理解してくれない
- F-9 仕事をお持ちの方にお尋ねします。仕事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか。
- 1 全く感じない
 - 2 少し負担に感じる
 - 3 かなり負担に感じる
 - 4 大変負担に感じる

F-10 家事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか。

- 1 全く感じない
- 2 少し負担に感じる
- 3 かなり負担に感じる
- 4 大変負担に感じる

F-11 日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

- 1 ある
- 2 ない → 2に○を付けた方は、F-14へ

F-12 悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○を付けてください。
また、その中で最も気になる原因の番号を表下の番号記入欄に記入してください。

1 家族との人間関係	12 妊娠・出産
2 家族以外との人間関係	13 育児
3 恋愛・性に関すること	14 家事
4 結婚	15 自分の学業・受験・進学
5 離婚	16 子供の教育
6 いじめ、セクシャル・ハラスメント	17 自分の仕事
7 生きがいに関すること	18 家族の仕事
8 自由にできる時間の不足	19 住まいや生活環境
9 収入・家計・借金等	20 その他
10 自分の病気や介護	21 わからない
11 家族の病気や介護	

最も気になる原因の番号 → _____ 番

F-13 悩みやストレスの相談状況について、下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。

また質問 F-12 の最も気になる原因についての相談の場合当てはまる番号のうち、主なものを2つまで表下の番号記入欄に記入してください。

1 家族に相談している	8 肝炎医療コーディネーター
2 友人・知人に相談している	9 患者同士で相談している
3 職場の上司、学校の先生に相談している	10 1～8 以外で相談している (職場の相談窓口等)
4 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している(電話・インターネット等での相談含む)	11 相談したいが誰にも相談できないでいる
5 患者会の電話相談を利用している	12 相談したいが相談先がわからない
6 病院・診療所の医師に相談している	13 相談する必要がある
7 病院・診療所の看護師に相談している	

F13-1 最も気になる原因の相談状況の番号記入欄 ⇒ ____番と ____番

F-14 生活保護は受けていますか。

- 1 受けている
- 2 受けていない

F-15 あなたの加入している医療保険はどれですか。

- 1 国民健康保険
- 2 被雇用者保険(協会けんぽ、組合健保、共済組合等)
- 3 後期高齢者医療制度(長寿医療制度)
- 4 その他

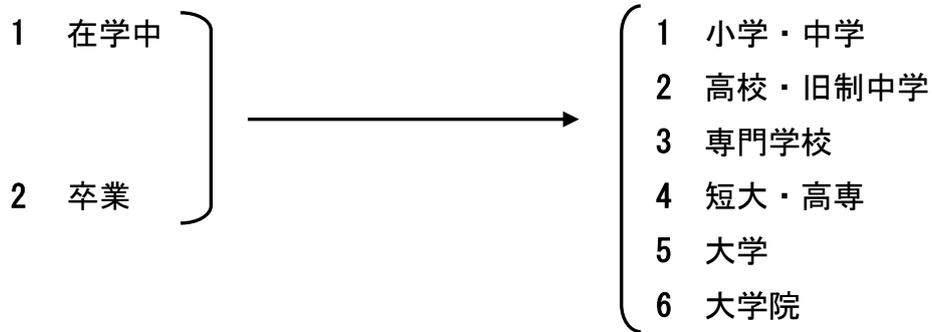
F-16 年金を受給されていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

F-17 年金を受給されている方にお尋ねします。年金の種類について、あてはまるすべての番号に○をつけてください。

- 1 国民年金
- 2 厚生年金
- 3 共済年金
- 4 遺族年金
- 5 その他

F-18 あなたが受けた教育の状況について教えてください。「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○をつけてください。



F-19 あなたの仕事内容について教えてください。

- 1 無職
- 2 会社員
- 3 公務員
- 4 自営業
- 5 派遣社員
- 6 パート・アルバイト
- 7 その他

F-20 現在、会社員・公務員の方は、現時点までの合計の勤続年数を教えてください。

_____年

F-21 現在は退職し、かつて会社員・公務員だった方は、過去の合計の勤続年数を教えてください。

_____年

G. さいごに、あなたのお考えをお聞かせください。

G-1 国（厚生労働省）の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、番号に○をつけてください。下欄カッコの中に、重要と思う順に1位～3位の番号を記入してください。

- 1 肝炎患者（肝硬変・肝がん患者を含む）の医療費・生活支援肝炎などの治療薬、
- 2 治療方法などの開発、保険認可
- 3 肝炎相談窓口の充実
- 4 ウイルス検査の受診率向上
- 5 患者に対しての市町村などの保健指導
- 6 専門医療機関とかかりつけ医との連携
- 7 その他（ ）

第1位（ ） 第2位（ ） 第3位（ ）

G-2 ご自分の肝臓病に関連しての悩みや、希望されることなどについて自由にお書きください。

A large rectangular box with a solid black border, containing 20 horizontal dashed lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the box.

ご協力ありがとうございました。

本調査票は同封の返信用封筒に入れて、令和4年 3月 31日
(当日消印有効)までに、本調査用紙および返信用封筒にも無記名
の状態で郵送をお願いします。

資料4：国立病院機構病院、肝疾患診療連携拠点病院に通院中の患者を対象としたアンケート調査：
中間集計結果 1

肝疾患患者さんに対するアンケート調査
中間報告

アンケート回収期間： 2021年6月7日～2021年11月1日

調査施設：

国立病院機構33施設、肝疾患診療連携拠点病院8施設、計41施設

調査対象者数：

上記医療施設に通院している肝疾患患者1340名

アンケート回収率： 23.9% (1304/5440)

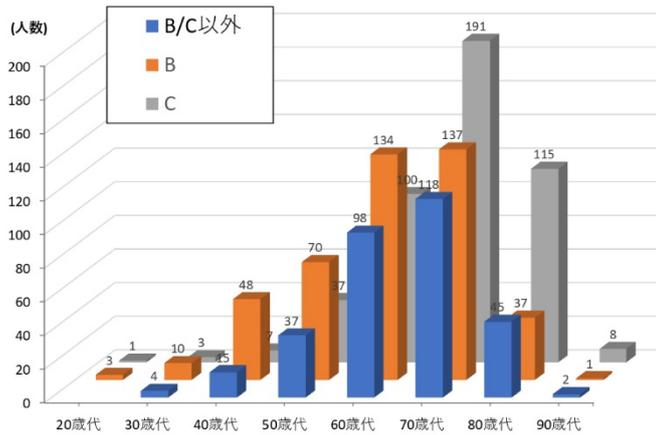
アンケートの設問数： 79設問

アンケート回答者(N=1304)の背景因子(1)

原因別		病態別	
C型肝炎	444(34%)	1. 慢性肝炎	636(48%)
B型肝炎	466(36%)	2. 肝硬変	232(18%)
B/C以外	383(29%)	3. 肝がん	197(15%)
B型及びC型肝炎	11(1%)	4. キャリアー	146(11%)
合計	1304	5. 脂肪肝、 非アルコール性 脂肪肝炎(NASH)	115(9%)
		その他	176
		無回答	51
		合計	1553

アンケート回答者(N=1304)の背景因子(2)

年齢分布



性別

男性	629(48.2%)
女性	674(51.7%)
無回答	1(0.1%)
合計	1304

年代

20歳代	4(0.3%)
30歳代	17(1.3%)
40歳代	72(5.5%)
50歳代	151(11.6%)
60歳代	345(26.5%)
70歳代	484(37.1%)
80歳代	208(16%)
90歳代	11(0.8%)
無回答・不明回答	12(0.9%)

C-2 肝炎に感染していることで、差別を受けるなど、いやな思いをしたことがありますか。

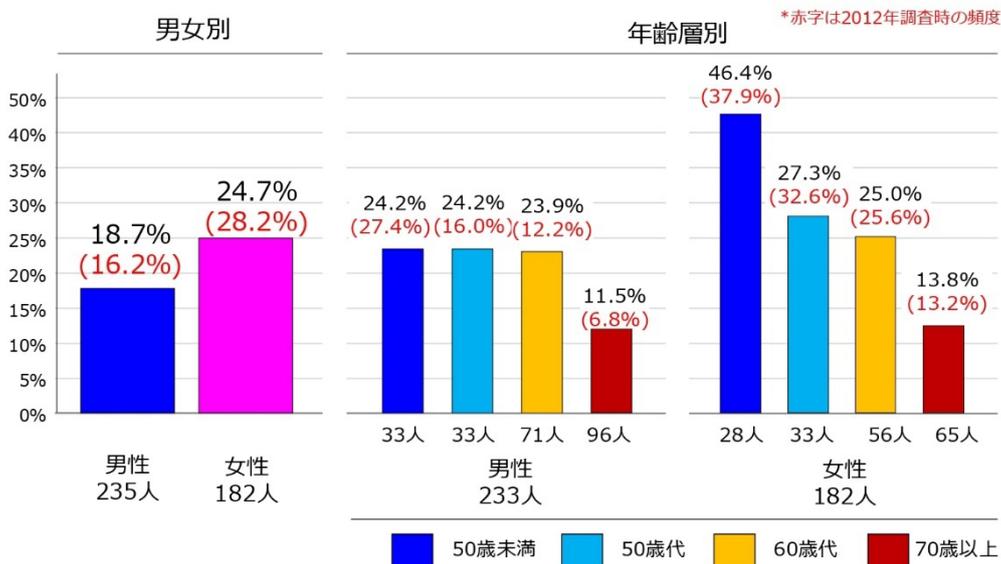
(B型肝炎444人、C型肝炎466人、B型・C型肝炎11人、計921人)

*赤字は2012年調査時の頻度

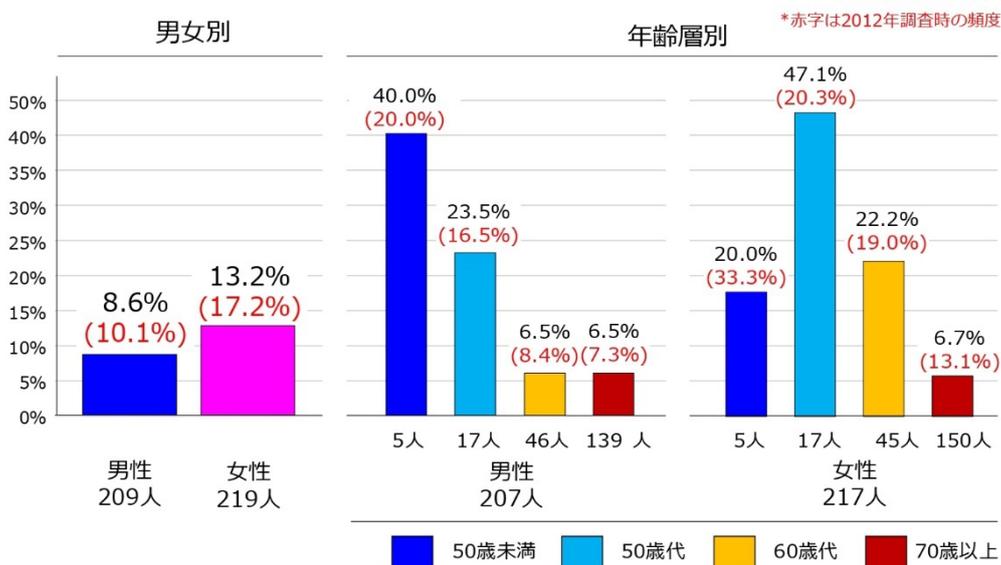
選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 特に無い	719	78.1	83.9
2. いやな思いをしたことがある	138	15.0	16.1
無回答	64	6.9	
合計	921	100.0	100.0



C-2 偏見差別「いやな思いをしたことがある」の頻度の検討
 417人のB型肝炎患者での男女別、年齢層別 ※人数は無回答を除く

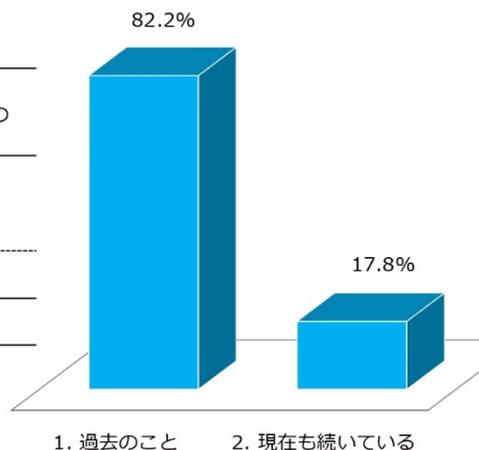


C-2 偏見差別「いやな思いをしたことがある」の頻度の検討
 428人のC型肝炎患者での男女別、年齢層別 ※人数は無回答を除く



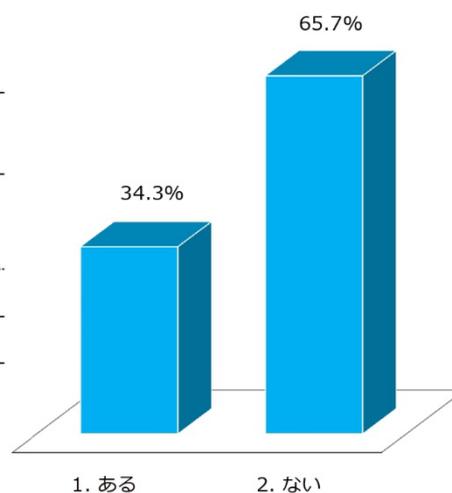
C-2-1 (前問で、「2 いやな思いをしたことがある」と答えた方にお尋ねします。)
 そのことは過去のことですか、現在も続いている話ですか。
 (B型肝炎89人、C型肝炎47人、B型・C型肝炎2人、計138人)

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 過去のこと	111	80.4	82.2
2. 現在も続いている	24	17.4	17.8
無回答	3	2.2	
合計	138	100.0	100.0

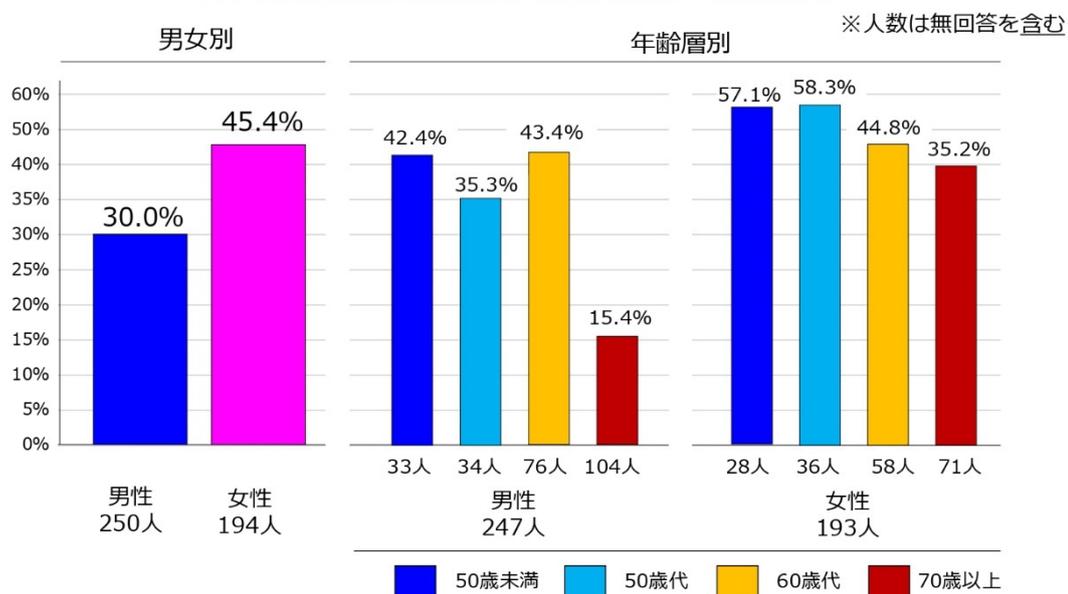


C-2-2 肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけていることがありますか。(B型肝炎444人、C型肝炎466人、B型・C型肝炎11人、計921人)

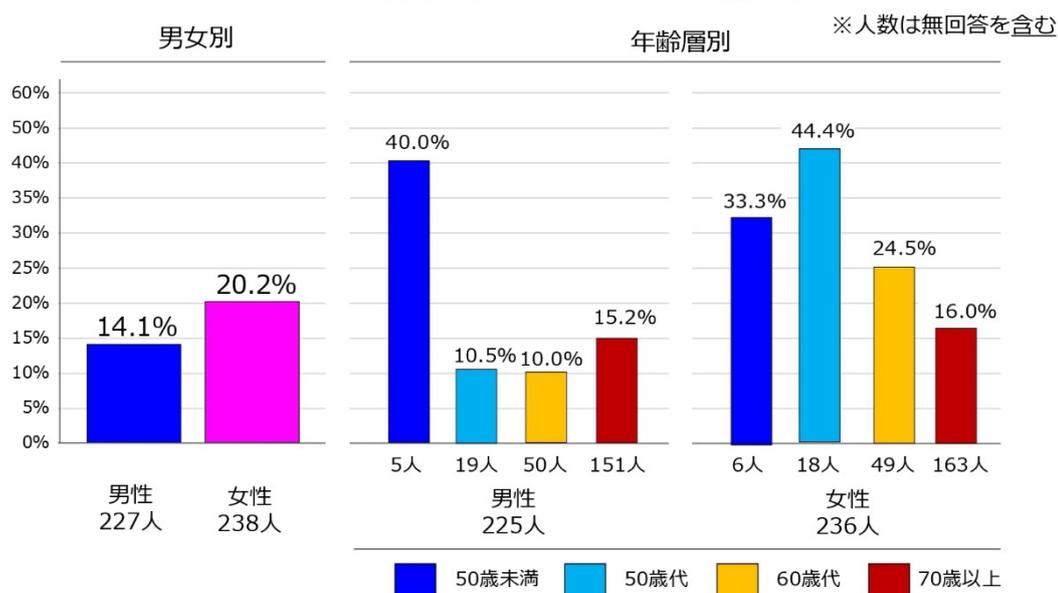
選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. ある	247	26.8	34.3
2. ない	473	51.4	65.7
無回答	201	21.8	
合計	921	100.0	100.0



C-2-2 偏見差別 「気を付けていることがある」の頻度の検討
444人のB型肝炎患者での男女別、年齢層別



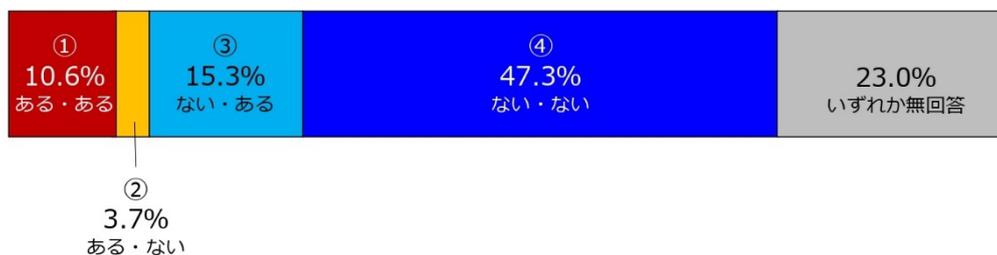
C-2-2 偏見差別 「気を付けていることがある」の頻度の検討
446人のC型肝炎患者での男女別、年齢層別



C-2×C-2-2 偏見差別エピソードの有無と気を付けていることの有無
(B型肝炎444人、C型肝炎466人、B型・C型肝炎11人、計921人)

		いやな思いをしないように 気を付けていることがあるかどうか	
		ある	ない
いやな思いをした ことがあるかどうか	いやな思いをしたことがある	①98	②34
	特に無い	③141	④436

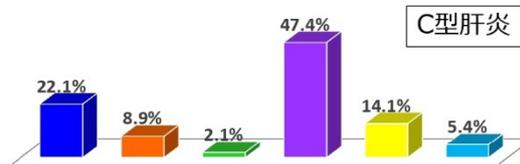
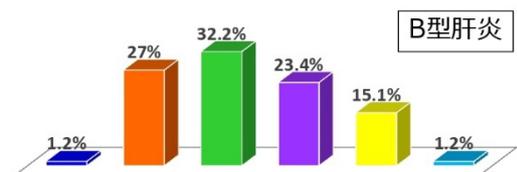
計921人



41

C-1 肝炎の感染経路について主治医からどのように説明を受けていますか。

選択項目	B型慢性肝炎		C型慢性肝炎	
	回答数	頻度 (有効回答のみ)	回答数	頻度 (有効回答のみ)
1. 手術(出産含む)の輸血・止血剤	5	1.2	94	22.1
2. 集団予防接種	114	27.0	38	8.9
3. 家族内感染(母子感染、父子感染)	136	32.2	9	2.1
4. 感染経路はわからない	99	23.4	202	47.4
5. 説明を受けていない	64	15.1	60	14.1
6. その他	5	1.2	23	5.4
無回答	21		40	
合計	444	100.0	466	100.0

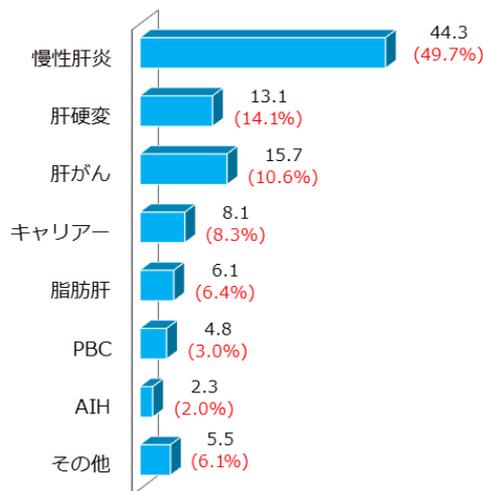


- 手術(出産含む)の輸血・止血剤
- 集団予防接種
- 家族内感染(母子感染、父子感染)
- 感染経路はわからない
- 説明を受けていない
- その他

B-1-1C あなたの病名は何と言われていますか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 (複数回答の場合の優先順位を3,2,1,5,6,7,8,4とした)

*赤字は2012年調査時の頻度

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 慢性肝炎	555	42.6	44.3
2. 肝硬変	164	12.6	13.1
3. 肝がん	197	15.1	15.7
4. キャリアー	102	7.8	8.1
5. 脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)	77	5.9	6.1
6. PBC	60	4.6	4.8
7. AIH	29	2.2	2.3
8. その他	69	5.3	5.5
無回答	51	3.9	
合計	1304	100.0	100.0



C-5 (肝硬変・肝がんの方にお尋ねします)

肝がん・重度肝硬変医療費助成制度について、ご存じですか。

	B/C			その他※			計
	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	
慢性肝炎	36	87	405	1	5	21	555
肝硬変	19	60	28	2	7	48	164
肝がん	46	73	16	4	10	48	197
キャリアー	5	14	80	0	0	3	102
脂肪肝、...	0	1	11	0	1	64	77
その他	0	0	3	0	0	53	56
PBC	0	0	0	0	0	33	33
AIH	0	3	9	3	2	52	69
無回答	3	6	16	0	6	20	52
計	109	244	568	10	31	342	1304

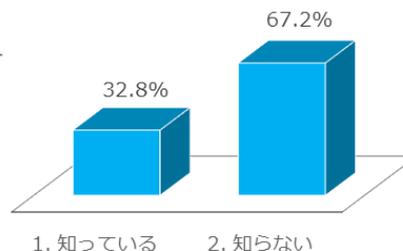
質問対象
242人

※その他…生活習慣、その他、無回答

質問対象 (無回答を除く) : 65/198 = 32.8%
 質問対象 : 65/242 = 26.9%
 肝硬変・肝がん全体 : 71/361 = 19.7%

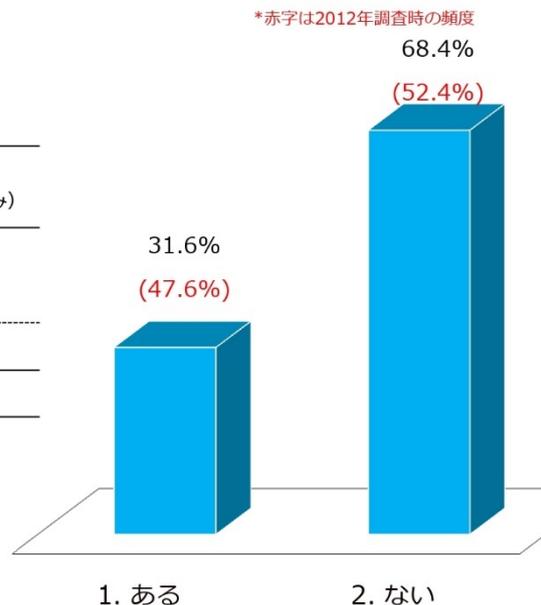
質問対象
242人

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 知っている	65	26.9	32.8
2. 知らない	133	55.0	67.2
無回答	44	18.2	
合計	242	100.0	100.0



F-11 日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. ある	369	28.3	31.6
2. ない	798	61.2	68.4
無回答	137	10.5	
合計	1304	100.0	100.0



F-12 悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。(N=369)

選択項目	回答数	頻度 (有効回答のみ)
1. 家族との人間関係	61	17.7
2. 家族以外との人間関係	65	18.8
3. 恋愛・性に関すること	23	6.7
4. 結婚	14	4.1
5. 離婚	4	1.2
6. いじめ、セクシャル・ハラメント	7	2.0
7. 生きがいに関すること	87	25.2
8. 自由にできる時間の不足	37	10.7
9. 収入・家計・借金等	89	25.8
10. 自分の病気や介護	183	53.0
11. 家族の病気や介護	59	17.1
12. 妊娠・出産	10	2.9
13. 育児	10	2.9
14. 家事	41	11.9
15. 自分の学業・受験・進学	2	0.6
16. 子供の教育	14	4.1
17. 自分の仕事	89	25.8
18. 家族の仕事	23	6.7
19. 住まいや生活環境	38	11.0
20. その他	26	7.5
21. わからない	9	2.6
無回答	24	
合計	915	
有効回答人数	345	

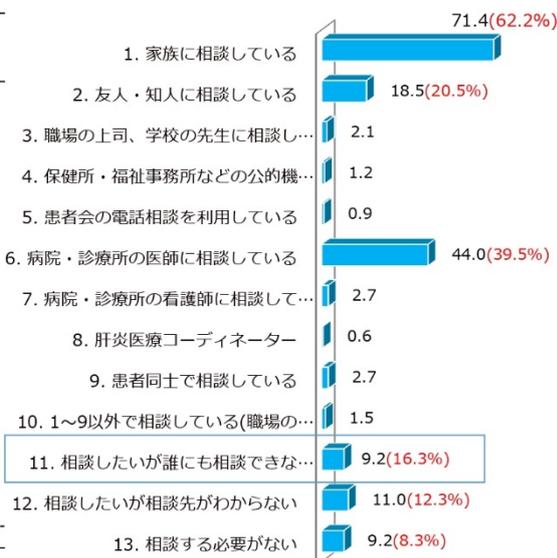


前回と比較して10.自分の病気や介護が増加しその他の減少している。

F-13 悩みやストレスの相談状況について、下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。(N=369)

*赤字は2012年調査時の頻度

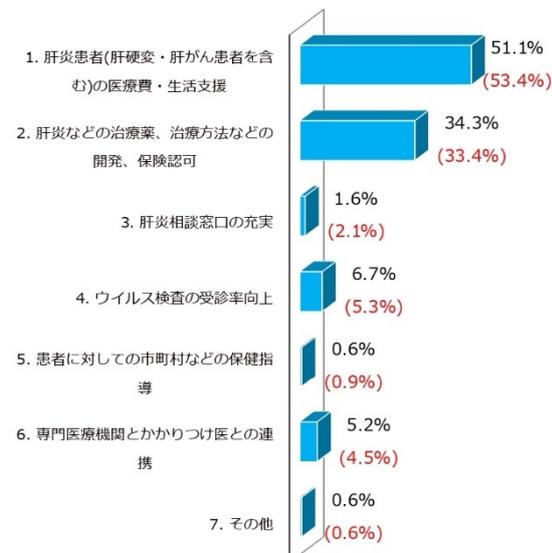
選択項目	回答数	頻度 (有効回答のみ)
1. 家族に相談している	240	71.4
2. 友人・知人に相談している	62	18.5
3. 職場の上司、学校の先生に相談している	7	2.1
4. 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している(電話・インターネット等での相談含む)	4	1.2
5. 患者会の電話相談を利用している	3	0.9
6. 病院・診療所の医師に相談している	148	44.0
7. 病院・診療所の看護師に相談している	9	2.7
8. 肝炎医療コーディネーター	2	0.6
9. 患者同士で相談している	9	2.7
10. 1~9以外で相談している(職場の相談窓口等)	5	1.5
11. 相談したいが誰にも相談できない	31	9.2
12. 相談したいが相談先がわからない	37	11.0
13. 相談する必要がない	31	9.2
無回答	33	
合計	621	
有効回答人数	336	



G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1位~3位の番号を記入してください。(1位)

*赤字は2012年調査時の頻度

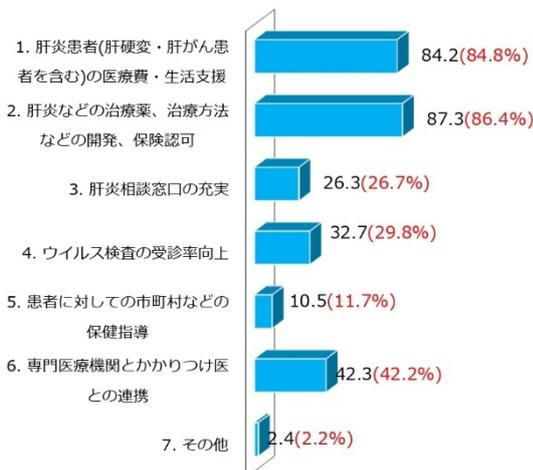
選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患者を含む)の医療費・生活支援	590	45.2	51.1
2. 肝炎などの治療薬、治療方法などの開発、保険認可	396	30.4	34.3
3. 肝炎相談窓口の充実	18	1.4	1.6
4. ウイルス検査の受診率向上	77	5.9	6.7
5. 患者に対しての市町村などの保健指導	7	0.5	0.6
6. 専門医療機関とかかりつけ医との連携	60	4.6	5.2
7. その他	7	0.5	0.6
無回答	149	11.4	
合計	1304	100.0	100.0



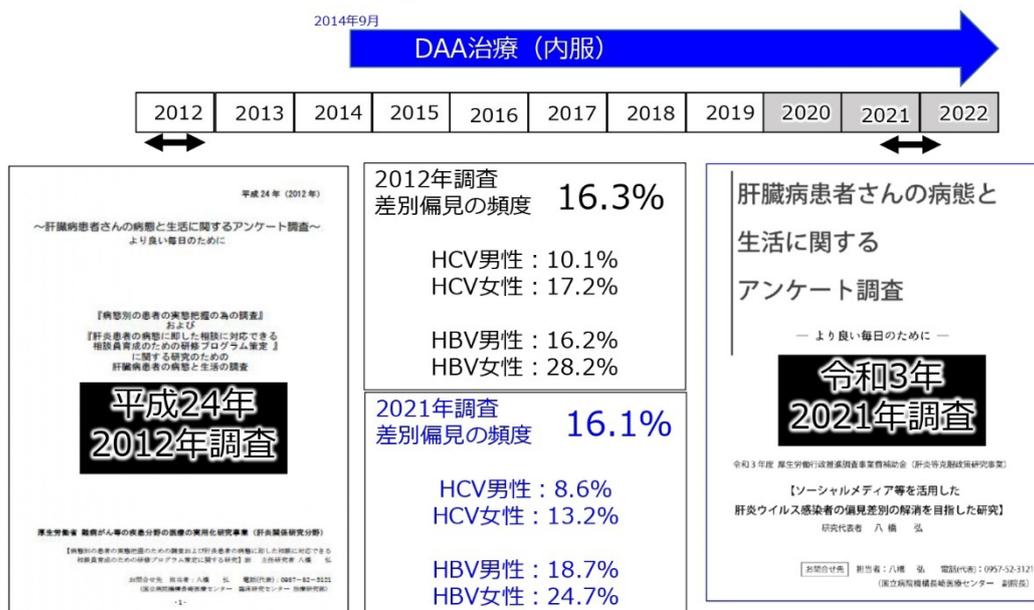
G-1 国（厚生労働省）の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、番号に○をつけてください。（N=1304）

*赤字は2012年調査時の頻度

選択項目	回答数	頻度 (有効回答のみ)
1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患者を含む)の医療費・生活支援	972	84.2
2. 肝炎などの治療薬、治療方法などの開発、保険認可	1008	87.3
3. 肝炎相談窓口の充実	304	26.3
4. ウイルス検査の受診率向上	378	32.7
5. 患者に対しての市町村などの保健指導	121	10.5
6. 専門医療機関とかかりつけ医との連携	489	42.3
7. その他	28	2.4
無回答	149	
合計	3449	
有効回答人数	1155	



ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査
(患者アンケート調査)



資料 5: 国立病院機構病院、肝疾患診療連携拠点病院に通院中の患者を対象としたアンケート調査:
中間集計結果 2

A. あなたとあなたの世帯について、お尋ねします。

A-1 あなたの現在のお住まいを教えてください。

1,304 人中、北海道・東北・関東 224 人(17.2%)、中部 116 人(8.9%)、近畿 219 人(16.8%)、中国・四国 289 人(22.2%)、九州 450 人(34.5%)、無回答 6 人(0.5%)であった。



A-2 あなたの出生年月を教えてください。元号に○をつけて、年月をお答えください。

1,304 人中、0 歳代 0 人(0.0%)、10 歳代 0 人(0.0%)、20 歳代 4 人(0.3%)、30 歳代 17 人(1.3%)、40 歳代 72 人(5.5%)、50 歳代 151 人(11.6%)、60 歳代 338 人(25.9%)、70 歳代 491 人(37.7%)、80 歳代 208 人(16.0%)、90 歳代 11 人(0.8%)、無回答 12 人(0.9%)であった。



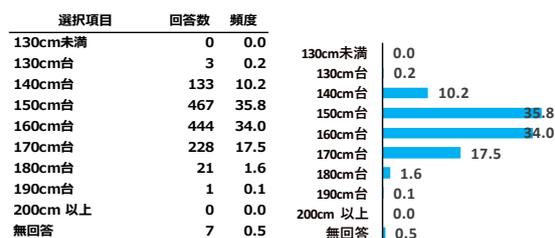
A-3 あなたの性別を教えてください。

1,304 人中、1. 男性 629 人(48.2%)、2. 女性 674 人(51.7%)、無回答 1 人(0.1%)であった。



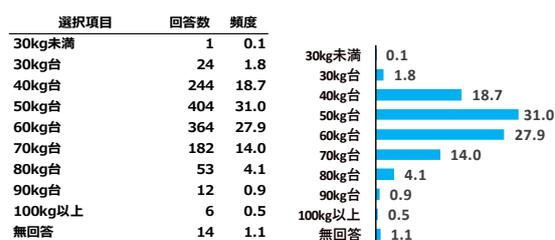
A-4 あなたの身長と体重を教えてください。(身長)

1,304 人中、130cm 未満 0 人(0.0%)、130cm 台 3 人(0.2%)、140cm 台 133 人(10.2%)、150cm 台 467 人(35.8%)、160cm 台 444 人(34.0%)、170cm 台 228 人(17.5%)、180cm 台 21 人(1.6%)、190cm 台 1 人(0.1%)、200cm 以上 0 人(0.0%)、無回答 7 人(0.5%)であった。



A-4 あなたの身長と体重を教えてください。(体重)

1,304 人中、30kg 未満 1 人(0.1%)、30kg 台 24 人(1.8%)、40kg 台 244 人(18.7%)、50kg 台 404 人(31.0%)、60kg 台 364 人(27.9%)、70kg 台 182 人(14.0%)、80kg 台 53 人(4.1%)、90kg 台 12 人(0.9%)、100kg 以上 6 人(0.5%)、無回答 14 人(1.1%)であった。



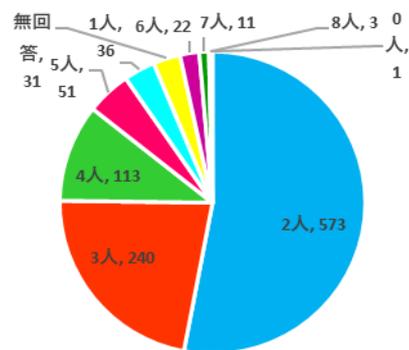
A-4 あなたの身長と体重を教えてください。(BMI)

1,289 人中、18.5 未満(低体重) 101 人(7.8%)、18.5 以上 25 未満(普通体重) 878 人(68.1%)、25 以上 35 未満(肥満) 301 人(23.4%)、35 以上(高度肥満) 9 人(0.7%)であった。



A-5 配偶者はいますか（配偶者は事実上夫婦として生活している場合も含まます）

1,304人中、1. 配偶者がいる 948人(72.7%)、2. 未婚 84人(6.4%)、3. 死別 171人(13.1%)、4. 離別 97人(7.4%)、無回答 4人(0.3%)であった。



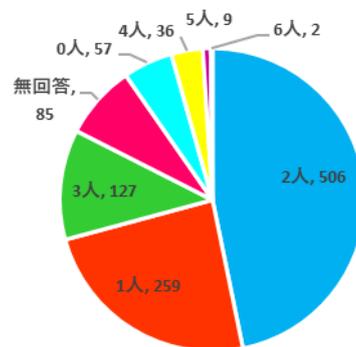
A-6 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか。1に○をつけた方はA-10に進んでください

1,304人中、1. ひとり住まい 199人(15.3%)、2. 家族・親族と同居 1,055人(80.9%)、3. 友人・知人と同居 5人(0.4%)、4. 施設に入居 5人(0.4%)、5. その他 16人(1.2%)、無回答 24人(1.8%)であった。



A-7 (A-6で2から5に○をつけた方)にお尋ねします。ふだん一緒にお住まいで生計をともにしている方(世帯員)は、あなたを含めて何人ですか。そのうち収入のある方は_____人

1,081人中、2 506人(46.8%)、1 259人(24.0%)、3 127人(11.7%)、無回答 85人(7.9%)、0 57人(5.3%)、4 36人(3.3%)、5 9人(0.8%)、6 2人(0.2%)であった。



A-7 (A-6で2から5に○をつけた方)にお尋ねします。ふだん一緒にお住まいで生計をともにしている方(世帯員)は、あなたを含めて何人ですか。_____人

1,081人中、2 573人(53.0%)、3 240人(22.2%)、4 113人(10.5%)、5 51人(4.7%)、1 36人(3.3%)、無回答 31人(2.9%)、6 22人(2.0%)、7 11人(1.0%)、8 3人(0.3%)、0 1人(0.1%)であった。

A-8 (○A-6で2から5に○をつけた方)にお尋ねします。あなたの世帯には、18歳未満の方はいますか。

1,081人中、1. いる 133人(12.3%)、2. いない 914人(84.6%)、無回答 34人(3.1%)であった。



A-9 (A-6で2から5に○をつけた方)にお尋ねします。あなたの世帯は、65歳以上の方のみですか。

1,081人中、1. はい 435人(40.2%)、2. いいえ 616人(57.0%)、無回答 30人(2.8%)であった。



A-10 あなたや家族の中で、日常的に介護が必要な方はどなたですか。

1,304人中、1. 本人 56人(4.3%)、2. 家族 86人(6.6%)、3. いない 1,115人(85.5%)、無回答 47人(3.6%)であった。



A-10-1 介護が必要な状況をお答えください。

1,304人中、1. 常時必要 58人(4.4%)、2. たまに必要 108人(8.3%)、無回答 1,138人(87.3%)であった。



A-11 現在お住まいの住居について教えてください。

1,304人中、1. 持ち家 1,079人(82.7%)、2. 民間・公営賃貸住宅 163人(12.5%)、3. 社宅・公務員住宅 10人(0.8%)、4. 間借り 20人(1.5%)、5. その他 21人(1.6%)、無回答 11人(0.8%)であった。



A-12 あなたの世帯で車をお持ちですか。

1,304人中、1. 持っている 1,090人(83.6%)、2. 持っていない 206人(15.8%)、無回答 8人(0.6%)であった。



A-13 あなたは世帯主または世帯を代表する方ですか。

1,304人中、1. はい 813人(62.3%)、2. いいえ 484人(37.1%)、無回答 7人(0.5%)であった。



A-14 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。

1,304人中、1. 大変苦しい 73人(5.6%)、2. やや苦しい 251人(19.2%)、3. ふつう 787人(60.4%)、4. ややゆとりがある 165人(12.7%)、5. 大変ゆとりがある 21人(1.6%)、無回答 7人(0.5%)であった。



A-15 あなたの世帯の令和2年(令和2年1月1日～12月31日)の所得額はどのぐらいでしたか。

1,304人中、1. 100万円未満 112人(8.6%)、2. 100万～300万円未満 512人(39.3%)、3. 300万～600万円未満 351人(26.9%)、4. 600万～1,000万円未満 130人(10.0%)、5. 1,000万円以上 57人(4.4%)、6. 答えたくない 66人(5.1%)、無回答 76人(5.8%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 100万円未満	112	8.6
2. 100万～300万…	512	39.3
3. 300万～600万…	351	26.9
4. 600万～1,00…	130	10.0
5. 1,000万円以上	57	4.4
6. 答えたくない	66	5.1
無回答	76	5.8



B. あなたの病気の状態について、お尋ねします。

B-1-1 あなたの病名は何とされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1,304人中、1. 慢性肝炎 636人(48.8%)、2. 肝硬変 232人(17.8%)、3. 肝がん 197人(15.1%)、4. キャリアー 146人(11.2%)、5. 脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎(NASH) 115人(8.8%)、6. PBC 63人(4.8%)、7. AIH 36人(2.8%)、8. その他 77人(5.9%)、該当なし 51人(3.9%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 慢性肝炎	636	48.8
2. 肝硬変	232	17.8
3. 肝がん	197	15.1
4. キャリアー	146	11.2
5. 脂肪肝、非アルコ…	115	8.8
6. PBC	63	4.8
7. AIH	36	2.8
8. その他	77	5.9
該当なし	51	3.9



B-1-1C あなたの病名は何とされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(複数回答の場合の優先順位を3,2,1,5,7,8,6,4とした場合)

1,304人中、1. 慢性肝炎 555人(42.6%)、2. 肝硬変 164人(12.6%)、3. 肝がん 197人(15.1%)、4. キャリアー102人(7.8%)、5. 脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)77人(5.9%)、6. PBC 60人(4.6%)、7. AIH 29人(2.2%)、8. その他 69人(5.3%)、無回答 51人(3.9%)であった。

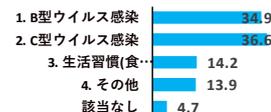
選択項目	回答数	頻度
1. 慢性肝炎	555	42.6
2. 肝硬変	164	12.6
3. 肝がん	197	15.1
4. キャリアー	102	7.8
5. 脂肪肝、非アルコ…	77	5.9
6. PBC	60	4.6
7. AIH	29	2.2
8. その他	69	5.3
無回答	51	3.9



B-1-2 あなたの肝臓病の原因は何とされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1,304人中、1. B型ウイルス感染 455人(34.9%)、2. C型ウイルス感染 477人(36.6%)、3. 生活習慣(食事、飲酒) 185人(14.2%)、4. その他 181人(13.9%)、該当なし 61人(4.7%)であった。

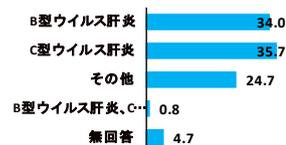
選択項目	回答数	頻度
1. B型ウイルス感染	455	34.9
2. C型ウイルス感染	477	36.6
3. 生活習慣(食事、飲…	185	14.2
4. その他	181	13.9
該当なし	61	4.7



B-1-2C あなたの肝臓病の原因は何とされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(複数回答の1-3,1-4を1、2-3、2-4を2とした場合)

1,304人中、B型ウイルス肝炎 444人(34.0%)、C型ウイルス肝炎 466人(35.7%)、その他 322人(24.7%)、B型ウイルス肝炎、C型ウイルス肝炎 11人(0.8%)、無回答 61人(4.7%)であった。

選択項目	回答数	頻度
B型ウイルス肝炎	444	34.0
C型ウイルス肝炎	466	35.7
その他	322	24.7
B型ウイルス肝炎、C型ウイルス肝炎	11	0.8
無回答	61	4.7



B-1-3 肝臓病と分かってからおよそ何年経ちましたか。

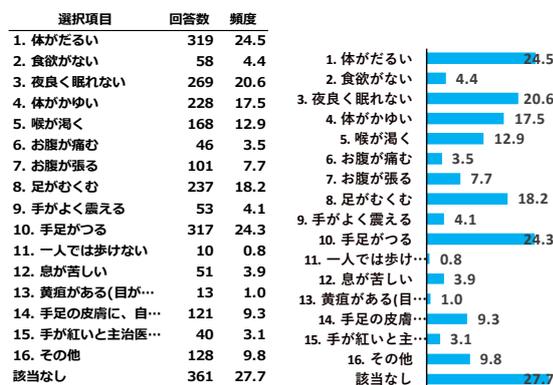
1,304人中、1. 5年未満 184人(14.1%)、2. 5年以上 153人(11.7%)、3. 10年以上 312人(23.9%)、4. 20年以上 282人(21.6%)、5. 30年以上 324人(24.8%)、無回答 49人(3.8%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 5年未満	184	14.1
2. 5年以上	153	11.7
3. 10年以上	312	23.9
4. 20年以上	282	21.6
5. 30年以上	324	24.8
無回答	49	3.8



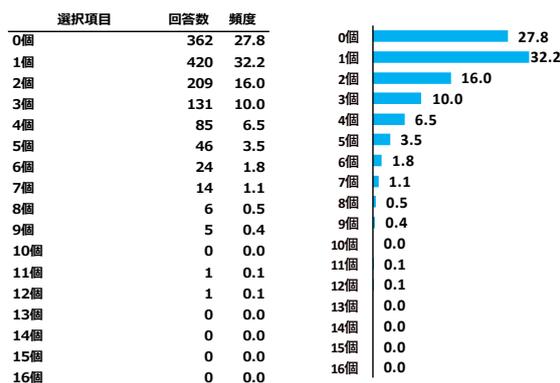
B-1-4 今の体の状態について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1,304人中、1. 体がだるい 319人(24.5%)、2. 食欲がない 58人(4.4%)、3. 夜良く眠れない 269人(20.6%)、4. 体がかゆい 228人(17.5%)、5. 喉が渇く 168人(12.9%)、6. お腹が痛む 46人(3.5%)、7. お腹が張る 101人(7.7%)、8. 足がむくむ 237人(18.2%)、9. 手がよく震える 53人(4.1%)、10. 手足がつる 317人(24.3%)、11. 一人では歩けない 10人(0.8%)、12. 息が苦しい 51人(3.9%)、13. 黄疽がある(目が黄色い) 13人(1.0%)、14. 手足の皮膚に、自然と出血したあとがでる 121人(9.3%)、15. 手が紅いと主治医から言われている 40人(3.1%)、16. その他 128人(9.8%)、該当なし 361人(27.7%)であった。



B-1-4 今の体の状態について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(選択個数)

1,304人中、0 362人(27.8%)、1 420人(32.2%)、2 209人(16.0%)、3 131人(10.0%)、4 85人(6.5%)、5 46人(3.5%)、6 24人(1.8%)、7 14人(1.1%)、8 6人(0.5%)、9 5人(0.4%)、10 0人(0.0%)、11 1人(0.1%)、12 1人(0.1%)、13 0人(0.0%)、14 0人(0.0%)、15 0人(0.0%)、16 0人(0.0%)であった。



B-2-1 歩いて移動するとき、どの程度不便を感じていますか。

1,304人中、1. 不便ではない 922人(70.7%)、2. 少し不便 214人(16.4%)、3. 中程度 62人(4.8%)、4. かなり不便 54人(4.1%)、5. 歩き回ることができない 21人(1.6%)、無回答 31人(2.4%)であった。



B-2-2 自分で身体を洗ったり着替えをするなど、身の回りのことをするのに、どの程度問題がありますか。

1,304人中、1. 問題はない 1,144人(87.7%)、2. 少しある 97人(7.4%)、3. 中程度 27人(2.1%)、4. かなりある 11人(0.8%)、5. 身の回りのことができない 3人(0.2%)、無回答 22人(1.7%)であった。



B-2-3 普段の活動(仕事、勉強、余暇活動など)を行うのに、どの程度問題がありますか。

1,304人中、1. 問題はない 951人(72.9%)、

2. 少しある 232人(17.8%)、3. 中程度 58人(4.4%)、4. かなりある 31人(2.4%)、5. 活動できない 9人(0.7%)、無回答 23人(1.8%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 問題はない	951	72.9
2. 少しある	232	17.8
3. 中程度	58	4.4
4. かなりある	31	2.4
5. 活動できない	9	0.7
無回答	23	1.8

B-2-4 痛みや不快感は、どの程度ありますか。

1,304人中、1. ない 902人(69.2%)、2. 少しある 296人(22.7%)、3. 中程度 49人(3.8%)、4. かなりある 24人(1.8%)、5. 極度の痛みや不快感がある 4人(0.3%)、無回答 29人(2.2%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. ない	902	69.2
2. 少しある	296	22.7
3. 中程度	49	3.8
4. かなりある	24	1.8
5. 極度の痛みや不快感	4	0.3
無回答	29	2.2

B-2-5 不安やふさぎ込みは、どの程度ありますか。

1,304人中、1. ない 775人(59.4%)、2. 少しある 410人(31.4%)、3. 中程度 54人(4.1%)、4. かなりある 33人(2.5%)、5. 極度の不安やふさぎ込みがある 6人(0.5%)、無回答 26人(2.0%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. ない	775	59.4
2. 少しある	410	31.4
3. 中程度	54	4.1
4. かなりある	33	2.5
5. 極度の不安やふさぎ	6	0.5
無回答	26	2.0

B-3-1 血小板の数はいくらですか。

1,304人中、1. 10万未満 194人(14.9%)、2. 10万～15万未満 180人(13.8%)、3. 15万～20万未満 200人(15.3%)、4. 20万以上 196人(15.0%)、5. わからない 364人(27.9%)、無

回答 170人(13.0%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 10万未満	194	14.9
2. 10万～15万未満	180	13.8
3. 15万～20万未満	200	15.3
4. 20万以上	196	15.0
5. わからない	364	27.9
無回答	170	13.0

B-3-2 AFP (アルファフェトプロテイン)の値はいくらですか。

1,304人中、1. 6未満 585人(44.9%)、2. 6～20未満 94人(7.2%)、3. 20以上 37人(2.8%)、4. わからない 422人(32.4%)、無回答 166人(12.7%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 6未満	585	44.9
2. 6～20未満	94	7.2
3. 20以上	37	2.8
4. わからない	422	32.4
無回答	166	12.7

B-3-3 Alb (アルブミン)の値はいくらですか。

1,304人中、1. 3.0g/dl未満 66人(5.1%)、2. 3.0g/dl～3.5g/dl未満 63人(4.8%)、3. 3.5g/dl～4.0g/dl未満 198人(15.2%)、4. 4.0g/dl以上 576人(44.2%)、5. わからない 275人(21.1%)、無回答 126人(9.7%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 3.0g/dl未満	66	5.1
2. 3.0g/dl～3.5g/dl未満	63	4.8
3. 3.5g/dl～4.0g/dl未満	198	15.2
4. 4.0g/dl以上	576	44.2
5. わからない	275	21.1
無回答	126	9.7

B-4-1 最近1年間で、何回入院しましたか。

1,304人中、1. 過去1年間は入院していない 1,045人(80.1%)、2. 過去1年間に1回入院した 108人(8.3%)、3. 過去1年間に2回入院した 39人(3.0%)、4. 過去1年間に3回以上入院した 30人(2.3%)、無回答 82人(6.3%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 過去1年間は入院し...	1045	80.1
2. 過去1年間に1回入...	108	8.3
3. 過去1年間に2回入...	39	3.0
4. 過去1年間に3回以...	30	2.3
無回答	82	6.3

B-4-2 最近1年間は、どれくらいの通院頻度でしたか。

1,304人中、1. 1ヶ月に1回程度 200人(15.3%)、2. 2ヶ月に1回程度 171人(13.1%)、3. 3ヶ月に1回程度 511人(39.2%)、4. 半年に1回程度 285人(21.9%)、5. 1年に1回程度 50人(3.8%)、6. それ以外 45人(3.5%)、無回答 42人(3.2%)であった。



B-4-3 肝臓病の治療のために、最近1ヶ月間で支払った医療費（診察・検査・薬代）および交通費の総額は、およそいくらでしたか。

1,304人中、1. 5千円未満 441人(33.8%)、2. 5千円～1万円未満 418人(32.1%)、3. 1万～3万円未満 280人(21.5%)、4. 3万～5万円未満 33人(2.5%)、5. 5万円以上 35人(2.7%)、無回答 97人(7.4%)であった。



B-4-4 肝臓病の治療のために、最近1年間で支払った医療費（診察・検査・薬代）および交通費の総額は、およそいくらですか。

1,304人中、1. 10万円未満 936人(71.8%)、2. 10万～20万円未満 163人(12.5%)、3. 20万～30万円未満 34人(2.6%)、4. 30万～50万円未満 18人(1.4%)、5. 50万～100万円未満 15人(1.2%)、6. 100万円以上 4人(0.3%)、無回答 134人(10.3%)であった。



B-4-5 1回の通院にかかる時間（片道）はどのくらいですか。

1,304人中、1. 1時間未満 1,087人(83.4%)、2. 1時間～2時間未満 145人(11.1%)、3. 2時間～3時間未満 23人(1.8%)、4. 3時間以上 8人(0.6%)、無回答 41人(3.1%)であった。



B-4-6 1回の受診で受付から会計を済ませるまでの、病院での必要時間はどのくらいですか。

1,304人中、1. 2時間未満 439人(33.7%)、2. 2時間～4時間未満 747人(57.3%)、3. 4時間～6時間未満 63人(4.8%)、4. 6時間以上 9人(0.7%)、無回答 46人(3.5%)であった。



C. ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）の方にお尋ねします。

C-1 肝炎の感染経路について主治医からどのように説明を受けていますか。

920人中、1. 手術(出産含む)の輸血・止血剤 101人(11.0%)、2. 集団予防接種 154人(16.7%)、3. 家族内感染(母子感染、父子感染) 146人(15.9%)、4. 感染経路はわからない 303人(32.9%)、5. 説明を受けていない 125人(13.6%)、6. その他 29人(3.2%)、無回答 62人(6.7%)であった。

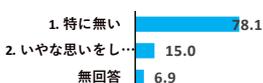
選択項目	回答数	頻度
1. 手術(出産含む)の…	101	11.0
2. 集団予防接種	154	16.7
3. 家族内感染(母子感…	146	15.9
4. 感染経路はわからな…	303	32.9
5. 説明を受けていない	125	13.6
6. その他	29	3.2
無回答	62	6.7



C-2 肝炎に感染していることで、差別を受けるなど、いやな思いをしたことがありますか。

921 人中、1. 特に無い 719 人(78.1%)、2. いやな思いをしたことがある 138 人(15.0%)、無回答 64 人(6.9%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 特に無い	719	78.1
2. いやな思いをしたこ…	138	15.0
無回答	64	6.9



C-2-1 (前問で、「2 いやな思いをしたことがある」と答えた方にお尋ねします。) そのことは過去のことで、現在も続いている話ですか。

138 人中、1. 過去のことで 111 人(80.4%)、2. 現在も続いている 24 人(17.4%)、無回答 3 人(2.2%)であった。

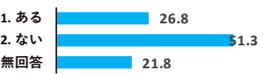
選択項目	回答数	頻度
1. 過去のことで	111	80.4
2. 現在も続いている	24	17.4
無回答	3	2.2



C-2-2 肝炎に感染していることで、いやな思いをしないように気をつけていることがありますか。具体的なことがあれば、かつこの中にお書きください。

919 人中、1. ある 247 人(26.8%)、2. ない 472 人(51.3%)、無回答 201 人(21.8%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. ある	247	26.8
2. ない	472	51.3
無回答	201	21.8



C-3 (C型肝炎の方にお尋ねします。) ウイルスは排除されましたか。

477 人中、1. はい 408 人(85.5%)、2. いいえ 23 人(4.8%)、3. その他(検査中、検査結果

待ち、DAA 治療中など) 16 人(3.4%)、無回答 30 人(6.3%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. はい	408	85.5
2. いいえ	23	4.8
3. その他(検査中、検…	16	3.4
無回答	30	6.3



C-3-1 (前問で「はい」と答えた方にお尋ねします。) ウイルスが排除されてから何年になりますか。

408 人中、1. 5 年未満 166 人(40.7%)、2. 5 年以上～10 年未満 144 人(35.3%)、3. 10 年以上 94 人(23.0%)、4. その他(わからないなど) 2 人(0.5%)、無回答 2 人(0.5%)であった。

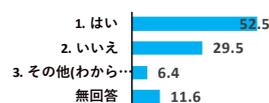
選択項目	回答数	頻度
1. 5 年未満	166	40.7
2. 5 年以上～10 年未…	144	35.3
3. 10 年以上	94	23.0
4. その他(わからない…	2	0.5
無回答	2	0.5



C-4 (B型肝炎の方にお尋ねします。) 核酸アナログ製剤を服用されていますか。

454 人中、1. はい 239 人(52.5%)、2. いいえ 134 人(29.6%)、3. その他(わからない、検討中) 29 人(6.4%)、無回答 53 人(11.6%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. はい	239	52.5
2. いいえ	134	29.5
3. その他(わからない…	29	6.4
無回答	53	11.6



C-4-1 (前問で「はい」と答えた方にお尋ねします。) 核酸アナログ製剤を服用されてから何年になりますか。

239 人中、1. 5 年未満 47 人(19.7%)、2. 5 年以上～10 年未満 75 人(31.4%)、3. 10 年以上～15 年未満 72 人(30.1%)、4. 15 年以上 41 人(17.2%)、5. その他(わからない) 0 人(0.0%)、無回答 4 人(1.7%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 5年未満	47	19.7
2. 5年以上～10年未…	75	31.4
3. 10年以上～15年…	72	30.1
4. 15年以上	41	17.2
5. その他(わからない…)	0	0.0
無回答	4	1.7



C-5 (肝硬変・肝がんの方にお尋ねします) 肝がん・重度肝硬変医療費助成制度について、ご存じですか。

242人中、1. 知っている 65人(26.9%)、2. 知らない 133人(55.0%)、無回答 44人(18.2%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 知っている	65	26.9
2. 知らない	133	55.0
無回答	44	18.2



C-5-1 (前問で「1. 知っている」と答えた方にお尋ねします) 助成制度は誰からお聞きになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

65人中、1. 主治医 50人(76.9%)、2. 看護師 4人(6.2%)、3. 肝炎医療コーディネーター 1人(1.5%)、4. 通院中の病院の窓口担当者 0人(0.0%)、5. 患者会 0人(0.0%)、6. インターネット・広報誌 7人(10.8%)、7. 行政機関 7人(10.8%)、8. その他 4人(6.2%)、該当なし 5人(7.7%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 主治医	50	76.9
2. 看護師	4	6.2
3. 肝炎医療コーディネーター	1	1.5
4. 通院中の病院の窓口	0	0.0
5. 患者会	0	0.0
6. インターネット・広	7	10.8
7. 行政機関	7	10.8
8. その他	4	6.2
該当なし	5	7.7

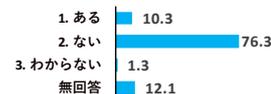


D. 肝硬変と診断された方にお尋ねします。ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）の方にお尋ねします。

D-1 吐血したことがありますか。

232人中、1. ある 24人(10.3%)、2. ない 177人(76.3%)、3. わからない 3人(1.3%)、無回答 28人(12.1%)であった。

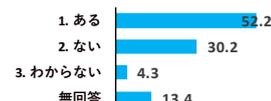
選択項目	回答数	頻度
1. ある	24	10.3
2. ない	177	76.3
3. わからない	3	1.3
無回答	28	12.1



D-2 食道静脈瘤に対する内視鏡（胃カメラ）治療（食道静脈瘤結紮術：EVL）を受けたことがありますか。

232人中、1. ある 121人(52.2%)、2. ない 70人(30.2%)、3. わからない 10人(4.3%)、無回答 31人(13.4%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. ある	121	52.2
2. ない	70	30.2
3. わからない	10	4.3
無回答	31	13.4



D-3 肝硬変が原因でお腹に水（腹水）が溜まっていると言われたことがありますか。

232人中、1. ある 59人(25.4%)、2. ない 140人(60.3%)、3. わからない 6人(2.6%)、無回答 27人(11.6%)であった。

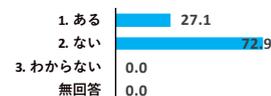
選択項目	回答数	頻度
1. ある	59	25.4
2. ない	140	60.3
3. わからない	6	2.6
無回答	27	11.6



D-4 (D-3の質問で1を選択した方)にお尋ねします。治療として、お腹の水（腹水）を針を刺して抜き取った経験をお持ちですか。

59人中、1. ある 16人(27.1%)、2. ない 43人(72.9%)、3. わからない 0人(0.0%)、無回答 0人(0%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. ある	16	27.1
2. ない	43	72.9
3. わからない	0	0.0
無回答	0	0.0



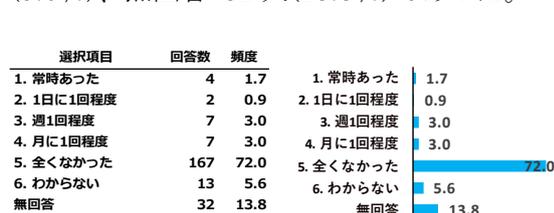
D-5 肝性脳症（肝臓の状態がよくないことが原因で脳の機能が一時的に低下した状態）で、意識をなくしたことがありますか。

232人中、1. ある 18人(7.8%)、2. ない 172人(74.1%)、3. わからない 9人(3.9%)、無回答 33人(14.2%)であった。



D-6 足元がふらついて一人で歩くことができないことや、人からの介助がないと歩くことができないことが、この1ヶ月間にどの程度ありましたか。

232人中、1. 常時あった 4人(1.7%)、2. 1日に1回程度 2人(0.9%)、3. 週1回程度 7人(3.0%)、4. 月に1回程度 7人(3.0%)、5. 全くなかった 167人(72.0%)、6. わからない 13人(5.6%)、無回答 32人(13.8%)であった。



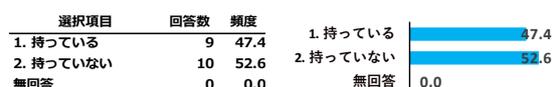
D-7 腹水、黄疸などの身体症状を伴う肝硬変の患者さんや、肝臓移植を受けられた患者さんでは、平成22年4月から身体障害者手帳の交付を受けられるようになっていますが、このことをご存知ですか？

232人中、1. 知らなかった 167人(72.0%)、2. 知っている 19人(8.2%)、無回答 46人(19.8%)であった。



D-8 肝臓病患者さんの身体障害者手帳の交付について知っている方(D-7の質問で2を選択した方)にお尋ねします。現在、肝機能障害による身体障害者手帳をおもちですか。

19人中、1. 持っている 9人(47.4%)、2. 持っていない 10人(52.6%)、無回答 0人(0.0%)であった。



D-9 現在、肝機能障害による身体障害者手帳を持っていない方(D-8の質問で2を選択した方)にお尋ねします。その理由をお教えてください。

10人中、1. 申請したが、非該当だった 0人(0.0%)、2. 申請しなかった 8人(80.0%)、3. 申請中 1人(10.0%)、無回答 1人(10.0%)であった。



D-10 肝機能障害による身体障害者手帳をお持ちの方(D-8の質問で1を選択した方)にお尋ねします。身体障害者手帳に記載されている等級をお答えください。

9人中、1. 1級 3人(33.3%)、2. 2級 3人(33.3%)、3. 3級 1人(11.1%)、4. 4級 2人(22.2%)、無回答 0人(0.0%)であった。



E. 肝がんと診断された方にお尋ねします。

E-1 今まで受けた肝がんの治療法について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

197人中、1. 外科手術 115人(58.4%)、2. ラジオ波治療 71人(36.0%)、3. エタノール注入治療 14人(7.1%)、4. 血管造影下治療 35人(17.8%)、5. 放射線治療 23人(11.7%)、6. 抗がん剤治療(飲み薬や注射での治療) 51人(25.9%)、7. その他 10人(5.1%)、該当なし 13人(6.6%)であった。



E-2 肝がんの治療のために今までに入院した回数は、およそ何回ですか。

197人中、1. 1回 70人(35.5%)、2. 2回 36人(18.3%)、3. 3回 28人(14.2%)、4. 4回 17人(8.6%)、5. 5回以上 32人(16.2%)、無回答 14人(7.1%)であった。



E-3 肝がんと診断されてから何年が経過しましたか。

197人中、1. 1年以内 25人(12.7%)、2. 1年～3年未満 38人(19.3%)、3. 3年～5年未満 36人(18.3%)、4. 5年～10年未満 46人(23.4%)、5. 10年以上 44人(22.3%)、無回答 8人(4.1%)であった。



F. あなたの日常生活や仕事の状況などについて、お尋ねします。

F-1 (ひとり住まい以外の方がお答えください) 同居している方々は、あなたが肝臓病であることをご存知ですか。

1,081人中、1. 全員が知っている 834人(77.2%)、2. 一部の人が知っている 113人(10.5%)、3. 全員知らない 17人(1.6%)、無回答 117人(10.8%)であった。



F-2 (ひとり住まい以外の方がお答えください) 同居している方々は、あなたの肝臓病に理解を示していますか。

1,081人中、1. 良く理解している 490人(45.3%)、2. おおよそ理解している 415人(38.4%)、3. 理解していない 42人(3.9%)、4. 全く理解していない 6人(0.6%)、無回答 128人(11.8%)であった。



F-3 病気のことで、あなたが最も気軽に相談できる方はどなたですか。1つだけお答えください。

1,304人中、1. 家族・親族 746人(57.2%)、2. 知人・友人 38人(2.9%)、3. 近所の人 1人(0.1%)、4. 職場の同僚 1人(0.1%)、5. 患者会

の方々(肝臓友の会など) 0 人(0.0%)、6. 医師 354 人(27.1%)、7. 看護師 2 人(0.2%)、8. 肝炎医療コーディネーター 2 人(0.2%)、9. 患者仲間(インターネットも含む) 2 人(0.2%)、10. 相談できる人がいない 21 人(1.6%)、11. その他 8 人(0.6%)、1. 家族・親族、6. 医師 77 人(5.9%)、無回答 52 人(4.0%)であった。



F-4 あなたの主治医は、あなたの質問に親切に答えてくれていますか。

1,304 人中、1. 良く答えてくれている 970 人(74.4%)、2. まあ答えてくれている 260 人(19.9%)、3. あまり答えてくれていない 24 人(1.8%)、4. まったく答えてくれていない 1 人(0.1%)、無回答 49 人(3.8%)であった。



F-5 あなたの日常の生活状況について教えてください。

1,304 人中、1. 一人で自由に外出が出来る 1,148 人(88.0%)、2. 一人で外出は出来るが困難を伴う 87 人(6.7%)、3. 一人では外出できず介助が必要である 26 人(2.0%)、無回答 43 人(3.3%)であった。



F-6 病気が、仕事や家事に与えた影響の度合いについてお聞かせ下さい。

1,304 人中、1. 病気にかかる前と同様に仕事や家事を続けている 923 人(70.8%)、2. 病気のために仕事や家事の時間を減らしたり、仕事や家事の種類、内容を変更したりした 150 人(11.5%)、3. 病気のために仕事や家事を辞めた 65 人(5.0%)、4. その他 61 人(4.7%)、無回答 105 人(8.1%)であった。



F-7 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気のことを知らせていますか。

518 人中、1. 知らせている 274 人(52.9%)、2. 知らせていない 182 人(35.1%)、無回答 62 人(12.0%)であった。



F-8 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気に理解を示してくれていますか。

518 人中、1. 良く理解してくれている 123 人(23.7%)、2. 一応、理解してくれている 175 人(33.8%)、3. あまり理解してくれない 27 人(5.2%)、4. 全く理解してくれない 18 人(3.5%)、無回答 175 人(33.8%)であった。



F-9 仕事をお持ちの方にお尋ねします。仕事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか。

518人中、1. 全く感じない 248人(47.9%)、2. 少し負担に感じる 167人(32.2%)、3. かなり負担に感じる 22人(4.2%)、4. 大変負担に感じる 10人(1.9%)、無回答 71人(13.7%)であった。



F-10 家事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか。

1,304人中、1. 全く感じない 690人(52.9%)、2. 少し負担に感じる 262人(20.1%)、3. かなり負担に感じる 34人(2.6%)、4. 大変負担に感じる 19人(1.5%)、無回答 299人(22.9%)であった。



F-11 日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

1,304人中、1. ある 369人(28.3%)、2. ない 798人(61.2%)、無回答 137人(10.5%)であった。



F-12 悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。また、その中で最も気になる原因の番号を表下の番号記入欄に記入してください。

369人中、1. 家族との人間関係 61人

(16.5%)、2. 家族以外との人間関係 65人(17.6%)、3. 恋愛・性に関すること 23人(6.2%)、4. 結婚 14人(3.8%)、5. 離婚 4人(1.1%)、6. いじめ、セクシャル・ハラスメント 7人(1.9%)、7. 生きがいに関すること 87人(23.6%)、8. 自由にできる時間の不足 37人(10.0%)、9. 収入・家計・借金等 89人(24.1%)、10. 自分の病気や介護 183人(49.6%)、11. 家族の病気や介護 59人(16.0%)、12. 妊娠・出産 10人(2.7%)、13. 育児 10人(2.7%)、14. 家事 41人(11.1%)、15. 自分の学業・受験・進学 2人(0.5%)、16. 子供の教育 14人(3.8%)、17. 自分の仕事 89人(24.1%)、18. 家族の仕事 23人(6.2%)、19. 住まいや生活環境 38人(10.3%)、20. その他 26人(7.0%)、21. わからない 9人(2.4%)、該当なし 24人(6.5%)であった。



F-12 悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。また、その中で最も気になる原因の番号を表下の番号記入欄に記入してください。(最も気になる原因)

369人中、1. 家族との人間関係 16人(4.3%)、2. 家族以外との人間関係 22人(6.0%)、3. 恋愛・性に関すること 6人(1.6%)、4. 結婚 2人

(0.5%)、5. 離婚 1人(0.3%)、6. いじめ、セクシャル・ハラスメント 0人(0.0%)、7. 生きがいに関すること 30人(8.1%)、8. 自由にできる時間の不足 12人(3.3%)、9. 収入・家計・借金等 47人(12.7%)、10. 自分の病気や介護 106人(28.7%)、11. 家族の病気や介護 17人(4.6%)、12. 妊娠・出産 3人(0.8%)、13. 育児 3人(0.8%)、14. 家事 8人(2.2%)、15. 自分の学業・受験・進学 0人(0.0%)、16. 子供の教育 3人(0.8%)、17. 自分の仕事 19人(5.1%)、18. 家族の仕事 0人(0.0%)、19. 住まいや生活環境 9人(2.4%)、20. その他 14人(3.8%)、21. わからない 2人(0.5%)、無回答 49人(13.3%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 家族との人間関係	16	4.3
2. 家族以外との人間関係	22	6.0
3. 恋愛・性に関すること	6	1.6
4. 結婚	2	0.5
5. 離婚	1	0.3
6. いじめ、セクシャル	0	0.0
7. 生きがいに関すること	30	8.1
8. 自由にできる時間の不足	12	3.3
9. 収入・家計・借金等	47	12.7
10. 自分の病気や介護	106	28.7
11. 家族の病気や介護	17	4.6
12. 妊娠・出産	3	0.8
13. 育児	3	0.8
14. 家事	8	2.2
15. 自分の学業・受験	0	0.0
16. 子供の教育	3	0.8
17. 自分の仕事	19	5.1
18. 家族の仕事	0	0.0
19. 住まいや生活環境	9	2.4
20. その他	14	3.8
21. わからない	2	0.5
無回答	49	13.3

F-13 悩みやストレスの相談状況について、
下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。また質問 F-12 の最も気になる原因についての相談の場合、当てはまる番号のうち、主なものを2つまで表下の番号記入欄に記入してください。

369人中、1. 家族に相談している 240人(65.0%)、2. 友人・知人に相談している 62人(16.8%)、3. 職場の上司、学校の先生に相談している 7人(1.9%)、4. 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している(電

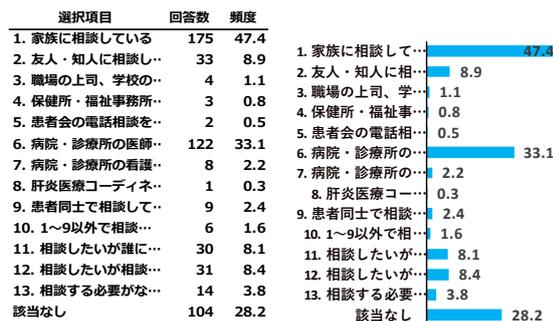
話・インターネット等での相談含む) 4人(1.1%)、5. 患者会の電話相談を利用している 3人(0.8%)、6. 病院・診療所の医師に相談している 148人(40.1%)、7. 病院・診療所の看護師に相談している 10人(2.7%)、8. 肝炎医療コーディネーター 2人(0.5%)、9. 患者同士で相談している 9人(2.4%)、10. 1~9以外で相談している(職場の相談窓口等) 5人(1.4%)、11. 相談したいが誰にも相談できないでいる 31人(8.4%)、12. 相談したいが相談先がわからない 37人(10.0%)、13. 相談する必要がない 31人(8.4%)、該当なし 33人(8.9%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 家族に相談している	240	65.0
2. 友人・知人に相談している	62	16.8
3. 職場の上司、学校の先生に相談している	7	1.9
4. 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している	4	1.1
5. 患者会の電話相談を利用している	3	0.8
6. 病院・診療所の医師に相談している	148	40.1
7. 病院・診療所の看護師に相談している	10	2.7
8. 肝炎医療コーディネーターに相談している	2	0.5
9. 患者同士で相談している	9	2.4
10. 1~9以外で相談している	5	1.4
11. 相談したいが誰にも相談できないでいる	31	8.4
12. 相談したいが相談先がわからない	37	10.0
13. 相談する必要がない	31	8.4
該当なし	33	8.9

F-13 悩みやストレスの相談状況について、
下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。また質問 F-12 の最も気になる原因についての相談の場合、当てはまる番号のうち、主なものを2つまで表下の番号記入欄に記入してください。(主なもの2つ)

369人中、1. 家族に相談している 175人(47.4%)、2. 友人・知人に相談している 33人(8.9%)、3. 職場の上司、学校の先生に相談している 4人(1.1%)、4. 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している(電話・インターネット等での相談含む) 3人(0.8%)、5. 患者会の電話相談を利用している 2人(0.5%)、6. 病院・診療所の医師に相談している 122人(33.1%)、7. 病院・診療所の看護師に相談している 8人(2.2%)、8. 肝炎医療コ

ーディネーター 1人(0.3%)、9. 患者同士で相談している 9人(2.4%)、10. 1～9以外で相談している(職場の相談窓口等) 6人(1.6%)、11. 相談したいが誰にも相談できないでいる 30人(8.1%)、12. 相談したいが相談先がわからない 31人(8.4%)、13. 相談する必要がない 14人(3.8%)、該当なし 104人(28.2%)であった。



F-14 生活保護は受けていますか。

1,304人中、1. 受けている 37人(2.8%)、2. 受けていない 1,223人(93.8%)、無回答 44人(3.4%)であった。



F-15 あなたの加入している医療保険はどれですか。

1,304人中、1. 国民健康保険 627人(48.1%)、2. 被雇用者保険(協会けんぽ、組合健保、共済組合等) 374人(28.7%)、3. 後期高齢者医療制度(長寿医療制度) 213人(16.3%)、4. その他 20人(1.5%)、無回答 70人(5.4%)であった。



F-16 年金を受給されていますか。

1,304人中、1. はい 909人(69.7%)、2. いいえ 346人(26.5%)、無回答 49人(3.8%)であった。



F-17 年金を受給されている方にお尋ねします。年金の種類について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

909人中、1. 国民年金 513人(56.4%)、2. 厚生年金 558人(61.4%)、3. 共済年金 118人(13.0%)、4. 遺族年金 77人(8.5%)、5. その他 35人(3.9%)、該当なし 7人(0.8%)であった。



F-18 あなたが受けた教育の状況について教えてください。「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○をつけてください。(教育の状況)

1,304人中、1. 在学中 3人(0.2%)、2. 卒業 1,112人(85.3%)、無回答 189人(14.5%)であった。



F-18 あなたが受けた教育の状況について教えてください。「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○をつけてください。(在学中の学校または最終卒業学校)

1,304人中、1. 小学・中学 195人(15.0%)、2. 高校・旧制中学 543人(41.6%)、3. 専門学校 127人(9.7%)、4. 短大・高専 126人(9.7%)、5. 大学 217人(16.6%)、6. 大学院 22人(1.7%)、無回答 74人(5.7%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 小学・中学	195	15.0
2. 高校・旧制中学	543	41.6
3. 専門学校	127	9.7
4. 短大・高専	126	9.7
5. 大学	217	16.6
6. 大学院	22	1.7
無回答	74	5.7



F-19 あなたの雇用形態について教えてください。

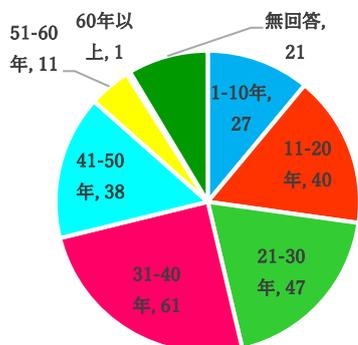
1,304人中、1. 無職 599人(45.9%)、2. 会社員 199人(15.3%)、3. 公務員 47人(3.6%)、4. 自営業 110人(8.4%)、5. 派遣社員 7人(0.5%)、6. パート・アルバイト 155人(11.9%)、7. その他 58人(4.4%)、無回答 129人(9.9%)であった。

選択項目	回答数	頻度
1. 無職	599	45.9
2. 会社員	199	15.3
3. 公務員	47	3.6
4. 自営業	110	8.4
5. 派遣社員	7	0.5
6. パート・アルバイト	155	11.9
7. その他	58	4.4
無回答	129	9.9



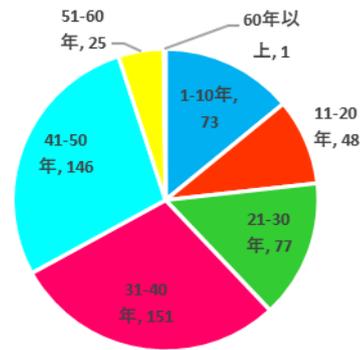
F-20 現在、会社員・公務員の方は、現時点までの合計の勤続年数を教えてください。

246人中、1-10年 27人(11.0%)、11-20年 40人(16.3%)、21-30年 47人(19.1%)、31-40年 61人(24.8%)、41-50年 38人(15.4%)、51-60年 11人(4.5%)、60年以上 1人(0.4%)、無回答 21人(8.5%)であった。



F-21 現在は退職し、かつて会社員・公務員だった方は、過去の合計の勤続年数を教えてください。

521人中、1-10年 73人(14.0%)、11-20年 48人(9.2%)、21-30年 77人(14.8%)、31-40年 151人(29.0%)、41-50年 146人(28.0%)、51-60年 25人(4.8%)、60年以上 1人(0.2%)であった。



G. さいごに、あなたのお考えをお聞かせください。

G-1 国（厚生労働省）の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、番号に○をつけてください。下欄カッコの中に、重要と思う順に1位～3位の番号を記入してください。(1位)

1,304人中、1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患者を含む)の医療費・生活支援 590人(45.2%)、2. 肝炎などの治療薬、治療方法などの開発、保険認可 396人(30.4%)、3. 肝炎相談窓口の充実 18人(1.4%)、4. ウイルス検査の受診率向上 77人(5.9%)、5. 患者に対しての市町村などの保健指導 7人(0.5%)、6. 専門医療機関とかかりつけ医との連携 60人(4.6%)、7. その他 7人(0.5%)、無回答 149人(11.4%)であった。



の保健指導 81 人(6.2%)、6. 専門医療機関と
 かかりつけ医との連携 322 人(24.7%)、7. そ
 の他 15 人(1.2%)、無回答 264 人(20.2%)であ
 った。

G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」
 で重要と思われるものを3つ選び、番号に○を
 つけてください。下欄カッコの中に、重要と思
 う順に1位～3位の番号を記入してください。
 (2位)



1,304 人中、1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患
 者を含む)の医療費・生活支援 271 人(20.8%)、
 2. 肝炎などの治療薬、治療方法などの開発、保
 険認可 530 人(40.6%)、3. 肝炎相談窓口の充
 実 54 人(4.1%)、4. ウイルス検査の受診率向
 上 104 人(8.0%)、5. 患者に対しての市町村な
 どの保健指導 33 人(2.5%)、6. 専門医療機関
 とかかりつけ医との連携 107 人(8.2%)、7. そ
 の他 6 人(0.5%)、無回答 199 人(15.3%)であ
 った。



G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」
 で重要と思われるものを3つ選び、番号に○を
 つけてください。下欄カッコの中に、重要と思
 う順に1位～3位の番号を記入してください。
 (3位)

1,304 人中、1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患
 者を含む)の医療費・生活支援 111 人(8.5%)、
 2. 肝炎などの治療薬、治療方法などの開発、保
 険認可 82 人(6.3%)、3. 肝炎相談窓口の充実
 232 人(17.8%)、4. ウイルス検査の受診率向
 上 197 人(15.1%)、5. 患者に対しての市町村など